

# 1 概況

## (1) 総合指数

### 広島市、福山市、三次市の3市ともに7年連続の下落

- 食料や教養娯楽などの値下がりにより、前年比は3市ともに下落。
- 広島市、三次市は、下落幅が拡大、福山市は縮小。
- 総合指数の前年比が、3市ともに7年連続下落したのは、比較可能な昭和49年以来初めて。
- 全国は下落に転じた。

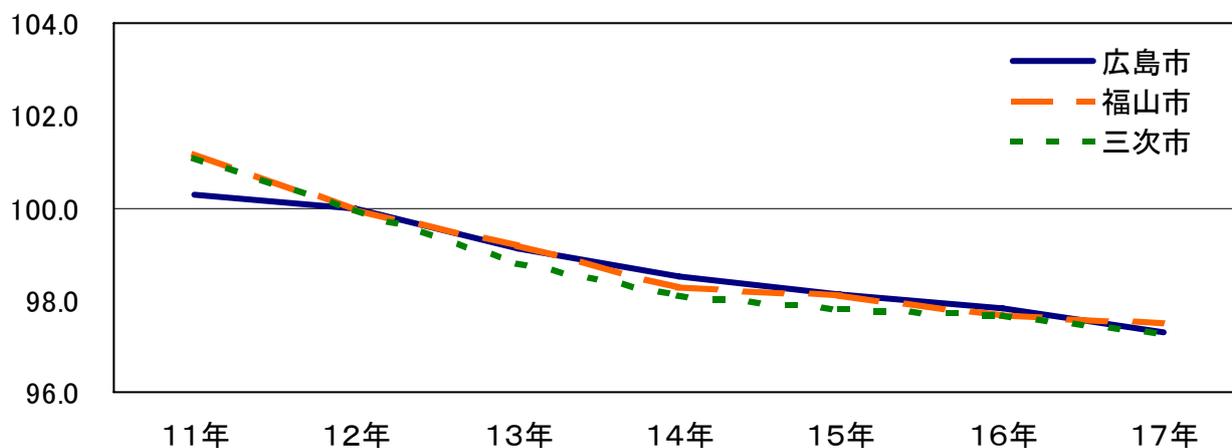
表1 総合指数の推移

(平成12年=100)

区 分		11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
広島市	指 数	100.3	100.0	99.1	98.5	98.1	97.8	97.3
	前年比 (%)	▲0.2	▲0.3	▲0.9	▲0.6	▲0.4	▲0.3	▲0.5
福山市	指 数	101.2	100.0	99.2	98.3	98.1	97.7	97.5
	前年比 (%)	▲0.5	▲1.2	▲0.8	▲0.9	▲0.2	▲0.4	▲0.2
三次市	指 数	101.1	100.0	98.8	98.1	97.8	97.7	97.3
	前年比 (%)	▲0.6	▲1.1	▲1.2	▲0.7	▲0.3	▲0.1	▲0.4
全 国	指 数	100.7	100.0	99.3	98.4	98.1	98.1	97.8
	前年比 (%)	▲0.3	▲0.7	▲0.7	▲0.9	▲0.3	0.0	▲0.3

- 平成11年は、教養娯楽や食料などの値下がりなどにより下落。
- 平成12年は、食料や教養娯楽などの値下がりにより下落。
- 平成13年は、食料や教養娯楽などの値下がりにより下落。
- 平成14年は、教養娯楽や食料などの値下がりにより下落。
- 平成15年は、教養娯楽や被服及び履物などの値下がりにより下落。
- 平成16年は、教養娯楽や家具・家事用品などの値下がりにより下落。

図1 総合指数の動き(平成12年=100)



(2) 生鮮食品を除く総合指数

広島市は5年連続、福山市は6年連続、三次市は7年連続下落

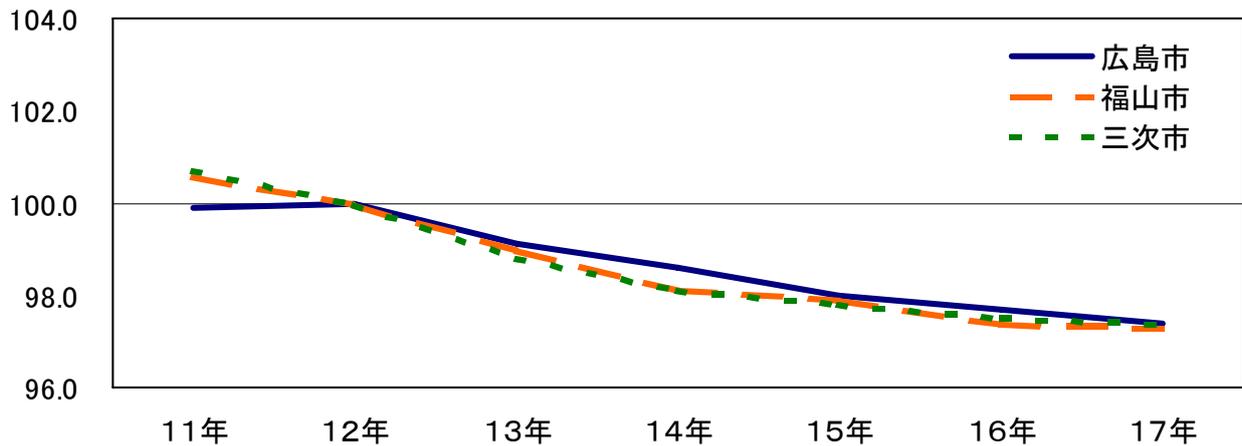
- 広島市は5年連続、福山市は6年連続、三次市は7年連続下落した。
- 広島市は下落幅は同水準、福山市、三次市は縮小した。
- 全国は6年連続して下落し、下落幅は前年と同水準であった。

表2 生鮮食品を除く総合指数の推移

(平成12年=100)

区 分		11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
広島市	指数	99.9	100.0	99.1	98.6	98.0	97.7	97.4
	前年比(%)	0.0	0.1	▲0.9	▲0.5	▲0.6	▲0.3	▲0.3
福山市	指数	100.6	100.0	99.0	98.1	97.9	97.4	97.3
	前年比(%)	0.0	▲0.6	▲1.0	▲0.9	▲0.2	▲0.5	▲0.1
三次市	指数	100.7	100.0	98.8	98.1	97.8	97.5	97.4
	前年比(%)	▲0.4	▲0.7	▲1.2	▲0.7	▲0.3	▲0.3	▲0.1
全 国	指数	100.4	100.0	99.2	98.3	98.0	97.9	97.8
	前年比(%)	0.0	▲0.4	▲0.8	▲0.9	▲0.3	▲0.1	▲0.1

図2 生鮮食品を除く総合指数の動き(平成12年=100)



### (3) 全国との比較（総合指数の前年比）

#### 広島市の前年比は47都道府県庁所在都市中第28位

平成17年の全国の前年比は▲0.3%であったが、都道府県庁所在都市のうち、全国より高かった都市は福井市（0.3%）をはじめ16市、低かった都市は奈良市（▲1.1%）をはじめ26市、同じであった都市はさいたま市をはじめ5市であった。

広島市の前年比は上昇率の高い順からみると、47都道府県庁所在都市中、千葉市、東京都区部、新潟市、静岡市、和歌山市、高松市及び宮崎市と並び第28位となった。

表3 総合指数の前年比の全国順位

順位	都道府県庁 所在都市	前年比(%)	順位	都道府県庁 所在都市	前年比(%)
1	福井市	0.3	22	松江市	▲0.4
2	盛岡市	0.1	22	松山市	▲0.4
3	青森市	0.0	22	高知市	▲0.4
3	福島市	0.0	28	千葉市	▲0.5
3	富山市	0.0	28	東京都区部	▲0.5
3	金沢市	0.0	28	新潟市	▲0.5
3	長野市	0.0	28	静岡市	▲0.5
3	徳島市	0.0	28	和歌山市	▲0.5
3	鹿児島市	0.0	28	<b>広島市</b>	▲0.5
10	札幌市	▲0.1	28	高松市	▲0.5
10	水戸市	▲0.1	28	宮崎市	▲0.5
10	大津市	▲0.1	36	仙台市	▲0.6
10	岡山市	▲0.1	36	宇都宮市	▲0.6
14	秋田市	▲0.2	36	前橋市	▲0.6
14	山形市	▲0.2	36	甲府市	▲0.6
14	津市	▲0.2	36	岐阜市	▲0.6
17	*さいたま市	▲0.3	36	熊本市	▲0.6
17	神戸市	▲0.3	42	名古屋市	▲0.7
17	山口市	▲0.3	43	長崎市	▲0.8
17	福岡市	▲0.3	43	那覇市	▲0.8
17	大分市	▲0.3	45	佐賀市	▲0.9
22	横浜市	▲0.4	46	大阪市	▲1.0
22	京都市	▲0.4	47	奈良市	▲1.1
22	鳥取市	▲0.4		全国	▲0.3

\*旧「浦和市」の結果を「さいたま市」として表章

(4) 全国との比較（生鮮食品を除く総合指数の前年比）

**広島市の前年比は47都道府県庁所在都市中第27位**

平成17年の全国の前年比は▲0.1%であったが、都道府県庁所在都市のうち、全国より高かった都市は福井市（0.5%）をはじめ15市、低かった都市は奈良市（▲1.0%）をはじめ27市、同じであった都市は秋田市をはじめ5市であった。

広島市の前年比は上昇率の高い順からみると、47都道府県庁所在都市中、千葉市、京都市及び宮崎市と並び第27位となった。

表4 生鮮食品を除く総合指数の前年比の全国順位

順位	都道府県庁所在都市	前年比(%)	順位	都道府県庁所在都市	前年比(%)
1	福井市	0.5	21	高知市	▲0.2
2	金沢市	0.3	21	大分市	▲0.2
3	青森市	0.2	27	千葉市	▲0.3
3	岡山市	0.2	27	京都市	▲0.3
3	徳島市	0.2	27	<b>広島市</b>	▲0.3
3	鹿児島市	0.2	27	宮崎市	▲0.3
7	札幌市	0.1	31	仙台市	▲0.4
7	盛岡市	0.1	31	宇都宮市	▲0.4
7	山形市	0.1	31	*さいたま市	▲0.4
7	福島市	0.1	31	東京都区部	▲0.4
7	富山市	0.1	31	新潟市	▲0.4
7	長野市	0.1	31	岐阜市	▲0.4
7	大津市	0.1	31	熊本市	▲0.4
14	津市	0.0	38	前橋市	▲0.5
14	神戸市	0.0	38	甲府市	▲0.5
16	秋田市	▲0.1	38	名古屋市	▲0.5
16	水戸市	▲0.1	38	那覇市	▲0.5
16	松江市	▲0.1	42	静岡市	▲0.6
16	高松市	▲0.1	42	和歌山市	▲0.6
16	福岡市	▲0.1	42	佐賀市	▲0.6
21	横浜市	▲0.2	45	大阪市	▲0.7
21	鳥取市	▲0.2	45	長崎市	▲0.7
21	山口市	▲0.2	47	奈良市	▲1.0
21	松山市	▲0.2		全国	▲0.1

\*旧「浦和市」の結果を「さいたま市」として表章

(5) 3市の月別の動き

総合指数は一時上昇。その後下落が続いたが、年末にかけて下落幅が縮小した。

生鮮食品を除く総合指数は年末に向かい、上昇又は下落幅が縮小した。

○ 総合指数の前年同月比

広島市は、5月に上昇。その後は生鮮食品等の下落により下落が続いた。

福山市は、4・5月に上昇。その後生鮮食品等の下落により下落が続いた。

三次市は、4・5月に上昇。その後生鮮食品等の下落により下落が続いたが、12月には再度上昇に転じた。

図3 総合指数の月別の動き(前年同月比:%)

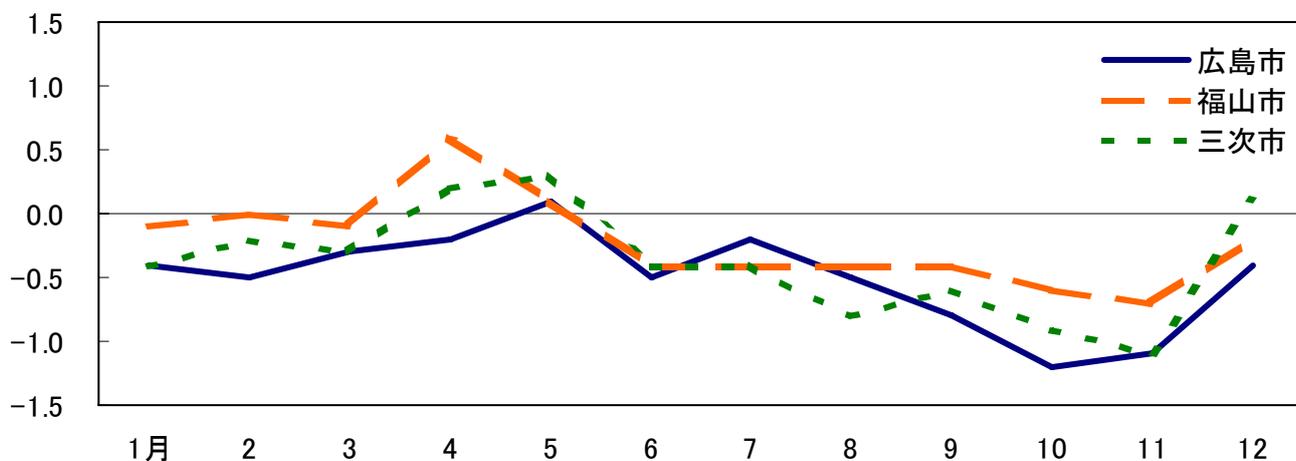


表5 月別消費者物価指数(総合指数)

(平成12年=100) (単位:%)

月	広島市			福山市			三次市		
	指数	前月比	前年同月比	指数	前月比	前年同月比	指数	前月比	前年同月比
1月	97.2	▲ 0.5	▲ 0.4	97.4	▲ 0.2	▲ 0.1	97.4	▲ 0.1	▲ 0.4
2月	97.0	▲ 0.2	▲ 0.5	97.3	▲ 0.1	0.0	97.3	▲ 0.1	▲ 0.2
3月	97.2	0.2	▲ 0.3	97.4	0.1	▲ 0.1	97.2	▲ 0.1	▲ 0.3
4月	97.4	0.2	▲ 0.2	97.8	0.4	0.6	97.5	0.3	0.2
5月	97.8	0.4	0.1	97.8	0.0	0.1	97.7	0.2	0.3
6月	97.4	▲ 0.4	▲ 0.5	97.4	▲ 0.4	▲ 0.4	97.2	▲ 0.5	▲ 0.4
7月	97.2	▲ 0.2	▲ 0.2	97.1	▲ 0.3	▲ 0.4	97.0	▲ 0.2	▲ 0.4
8月	97.1	▲ 0.1	▲ 0.5	97.3	0.2	▲ 0.4	96.7	▲ 0.3	▲ 0.8
9月	97.5	0.4	▲ 0.8	97.6	0.3	▲ 0.4	97.3	0.6	▲ 0.6
10月	97.4	▲ 0.1	▲ 1.2	97.8	0.2	▲ 0.6	97.5	0.2	▲ 0.9
11月	97.2	▲ 0.2	▲ 1.1	97.5	▲ 0.3	▲ 0.7	97.2	▲ 0.3	▲ 1.1
12月	97.3	0.1	▲ 0.4	97.4	▲ 0.1	▲ 0.2	97.6	0.4	0.1

○ 生鮮食品を除く総合指数の前年同月比

広島市は、年初から下落が続いたが、年末にかけ下落幅が縮小し、12月には前年と同水準になった。

福山市は、4月に上昇。その後下落が続いたが、10月から再度上昇に転じた。

三次市は、5月に上昇。その後下落が続いたが、12月から再度上昇に転じた。

図4 生鮮食品を除く総合指数の月別の動き(前年同月比:%)

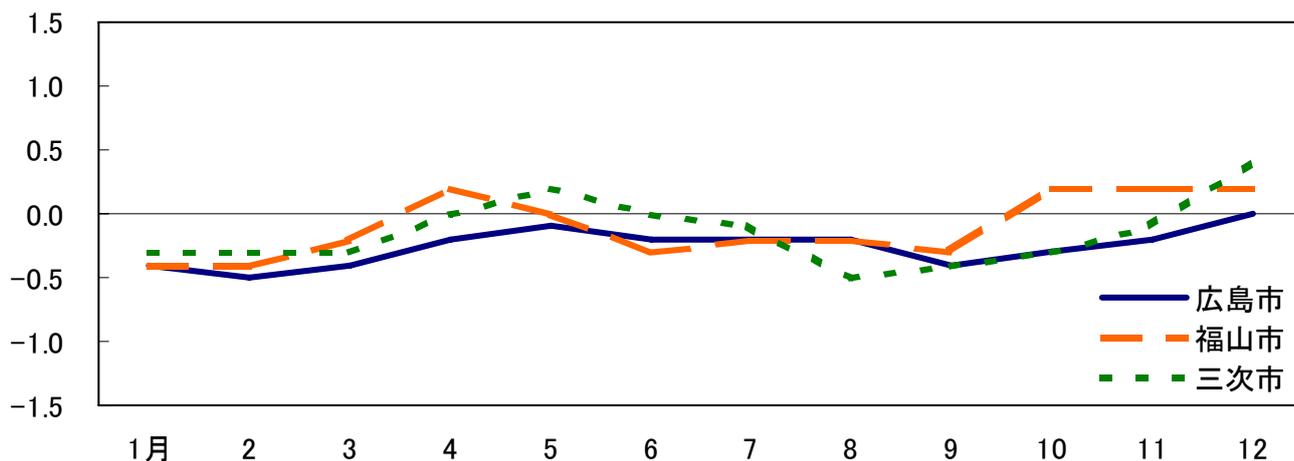


表6 月別消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)

(平成12年=100)(単位:%)

月	広島市			福山市			三次市		
	指数	前月比	前年同月比	指数	前月比	前年同月比	指数	前月比	前年同月比
1月	97.1	▲ 0.6	▲ 0.4	96.9	▲ 0.5	▲ 0.4	97.2	▲ 0.2	▲ 0.3
2月	96.8	▲ 0.3	▲ 0.5	96.7	▲ 0.2	▲ 0.4	97.0	▲ 0.2	▲ 0.3
3月	97.1	0.3	▲ 0.4	97.0	0.3	▲ 0.2	97.1	0.1	▲ 0.3
4月	97.5	0.4	▲ 0.2	97.4	0.4	0.2	97.4	0.3	0.0
5月	97.6	0.1	▲ 0.1	97.4	0.0	0.0	97.6	0.2	0.2
6月	97.5	▲ 0.1	▲ 0.2	97.2	▲ 0.2	▲ 0.3	97.4	▲ 0.2	0.0
7月	97.3	▲ 0.2	▲ 0.2	97.1	▲ 0.1	▲ 0.2	97.2	▲ 0.2	▲ 0.1
8月	97.4	0.1	▲ 0.2	97.2	0.1	▲ 0.2	97.0	▲ 0.2	▲ 0.5
9月	97.8	0.4	▲ 0.4	97.6	0.4	▲ 0.3	97.4	0.4	▲ 0.4
10月	97.7	▲ 0.1	▲ 0.3	97.9	0.3	0.2	97.6	0.2	▲ 0.3
11月	97.6	▲ 0.1	▲ 0.2	97.6	▲ 0.3	0.2	97.6	0.0	▲ 0.1
12月	97.7	0.1	0.0	97.6	0.0	0.2	97.8	0.2	0.4

(6) 費目別指数の動き

光熱・水道, 交通・通信, 教育は3市ともに上昇

食料, 家具・家事用品, 保健医療, 教養娯楽は3市ともに下落

- 灯油の他の光熱, ガソリンなどの自動車等関係費及び国立大, 私立中・高校授業料などの授業料等は3市ともに上昇。
- 米などの穀類, 生鮮野菜などの野菜・海藻, ルームエアコンなどの家庭用耐久財, ヘルスメーターなどの保健医療用品・器具及びテレビなどの教養娯楽用耐久財は3市ともに下落。

表7 費目別指数の前年比

費目	広島市		福山市		三次市	
	前年比 (%)	分類	前年比 (%)	分類	前年比 (%)	分類
食料	▲1.4	野菜・海藻 穀類	▲1.1	穀類 肉類	▲1.5	穀類 野菜・海藻
	▲5.9	生鮮野菜 生鮮果物	▲2.3	生鮮野菜 生鮮果物	▲4.8	生鮮野菜 生鮮果物
住居	▲0.9	家賃 設備修繕・維持	▲0.2	家賃 設備修繕・維持	0.5	家賃
光熱・水道	1.9	上下水道料 他の光熱	1.3	他の光熱 ガス代	1.4	他の光熱
家具・家事用品	▲4.6	家庭用耐久財 家事雑貨	▲2.4	家庭用耐久財 室内装備品	▲3.1	家庭用耐久財 家事雑貨
被服及び履物	3.7	履物類 シャツ・セーター類	2.8	洋服 シャツ・セーター類	▲0.1	履物類 被服関連サービス
保健医療	▲0.4	保健医療用品・器具 医薬品・健康保持用 摂取品	▲0.1	保健医療用品・器具 医薬品・健康保持用 摂取品	▲1.1	保健医療用品・器具 医薬品・健康保持用 摂取品
交通・通信	0.2	自動車等関係費	0.7	自動車等関係費	0.3	自動車等関係費
教育	0.2	授業料等 補習教育	0.6	補習教育 授業料等	0.9	補習教育 授業料等
教養娯楽	▲1.6	教養娯楽用耐久財 教養娯楽用品	▲1.8	教養娯楽用耐久財 教養娯楽用品	▲1.4	教養娯楽用耐久財 教養娯楽用品
諸雑費	▲0.1	理美容用品	1.0	身の回り用品 その他	1.2	身の回り用品 その他

## 2 財・サービス分類指数の動き

### 財の前年比は3市ともに下落

#### サービスの前年比は広島市、福山市は下落、三次市は上昇

財の前年比は、広島市▲0.6%、福山市▲0.1%、三次市▲0.8%となり、3市ともに下落した。

財のうち、農水畜産物では、昨年の台風等被害による野菜等の高値及び一昨年の冷夏による米類の不作による高値の反動のため3市ともに大きく下落した。

工業製品では、石油製品が3市ともに大きく上昇した。

電気・都市ガス・水道は、広島市では、一昨年の下水道の値上げにより上昇したが、福山市、三次市では同水準だった。

出版物は、3市ともに上昇した。

サービスの前年比は、広島市▲0.4%、福山市▲0.4%、三次市0.2%となった。

サービスのうち、公共サービスは固定電話通信料の値下がりなどにより3市ともに下落した。

また、一般サービスでは、外食は3市ともに上昇した。民営家賃は広島市、福山市では下落した。

表8 財・サービス分類指数の前年比

(平成12年=100)

費 目	広 島 市			福 山 市			三 次 市		
	指数	前年比 (%)		指数	前年比 (%)		指数	前年比 (%)	
		17年	16年		17年	16年		17年	16年
<b>財</b>	<b>94.9</b>	<b>▲0.6</b>	<b>▲0.5</b>	<b>95.3</b>	<b>▲0.1</b>	<b>▲0.6</b>	<b>95.5</b>	<b>▲0.8</b>	<b>▲0.3</b>
農水畜産物	98.2	▲4.8	1.9	99.5	▲4.6	1.0	96.3	▲5.2	1.6
生鮮商品	98.6	▲3.0	0.6	99.4	▲2.9	▲1.2	97.7	▲3.5	1.0
他の農水畜産物	95.7	▲16.1	11.2	99.8	▲15.1	16.7	87.7	▲15.7	5.5
工業製品	93.4	0.1	▲1.2	93.6	0.9	▲1.2	95.0	0.0	▲0.9
食料工業製品	94.8	▲0.2	▲0.6	94.5	0.4	▲0.5	96.3	0.0	▲0.7
繊維製品	97.8	2.2	▲0.4	93.9	3.2	▲0.7	94.7	1.5	0.1
石油製品	110.9	8.9	3.7	116.2	10.2	4.7	109.9	6.7	2.1
その他の工業製品	88.1	▲1.8	▲2.8	88.6	▲1.7	▲2.9	89.8	▲2.5	▲2.2
電気・都市ガス・水道	98.4	0.5	▲0.1	99.0	0.0	0.2	95.8	0.0	0.2
出版物	101.9	0.4	0.5	101.5	0.4	0.4	101.3	0.4	0.4
<b>サ ー ビ ス</b>	<b>100.0</b>	<b>▲0.4</b>	<b>0.0</b>	<b>100.0</b>	<b>▲0.4</b>	<b>▲0.2</b>	<b>99.7</b>	<b>0.2</b>	<b>0.0</b>
公共サービス	99.6	▲0.6	▲0.4	99.1	▲1.3	▲0.8	98.9	▲1.2	▲0.5
一般サービス	100.2	▲0.2	0.1	100.4	0.1	▲0.1	100.1	0.9	0.2
外 食	102.1	0.5	1.6	100.9	0.3	0.6	100.6	0.5	1.0
民 営 家 賃	102.1	▲0.6	▲0.1	98.9	▲0.5	▲0.6	101.1	2.6	▲0.1
持家の帰属家賃	98.0	▲1.2	▲0.4	100.6	▲0.1	▲0.3	99.1	1.0	0.2
他のサービス	100.1	0.1	▲0.2	100.3	0.3	▲0.1	100.9	0.6	0.0

### 3 広島市の動き

#### (1) 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数

##### 総合指数は7年連続、生鮮食品を除く総合指数は5年連続の下落

- 食料，教養娯楽などの下落により，総合指数の前年比は0.5%下落し，下落幅は0.2ポイント拡大した。生鮮食品を除く総合指数の前年比は0.3%下落し，下落幅は前年と同水準だった。
- 総合指数が7年連続下落したのは，昭和49年に本県が指数作成を開始して以来初めてである。

表9 広島市の10大費目別消費者物価指数

(平成12年=100)

区 分	指数	前年比(%)		前年比の動き	費目別の動き	
		17年	16年		上昇した費目	下落した費目
総 合	97.3	▲0.5	▲0.3	7年連続下落		
生鮮食品を除く総合	97.4	▲0.3	▲0.3	5年連続下落		
食 料	97.3	▲1.4	0.5	3年ぶりに下落	調理食品 (1.8) 肉類 (1.6)	野菜・海藻 (▲7.6) 穀類 (▲7.6)
生鮮食品	94.8	▲5.9	1.0	3年ぶりに下落		生鮮野菜 (▲10.2) 生鮮果物 (▲4.9) 生鮮魚介 (▲1.3)
住 居	98.9	▲0.9	▲0.4	3年連続下落		家賃 (▲0.9) 設備修繕・維持 (▲0.4)
光熱・水道	101.8	1.9	0.7	2年連続上昇	上下水道料 (3.0) 他の光熱 (19.7)	
家具・家事用品	82.2	▲4.6	▲5.2	13年連続下落	家事サービス (0.5)	家庭用耐久財 (▲7.2) 家事雑貨 (▲3.9)
被服及び履物	99.0	3.7	0.1	2年連続上昇	履物類 (11.9) シャツ・セーター類 (4.2)	和服 (▲3.4)
保健医療	100.4	▲0.4	▲0.6	2年連続下落	保健医療サービス (0.5)	保健医療用品・器具 (▲2.9) 医薬品・健康保持用 摂取品 (▲0.5)
交通・通信	97.9	0.2	▲0.6	5年ぶりに上昇	自動車等関係費 (2.1)	通信 (▲6.5)
教 育	104.1	0.2	0.7	指数作成以来連続して上昇	授業料等 (0.2) 補習教育 (0.2)	
教養娯楽	90.4	▲1.6	▲1.9	8年連続下落	書籍・他の印刷物 (0.5)	教養娯楽用耐久財 (▲14.3) 教養娯楽用品 (▲2.4)
諸 雑 費	100.5	▲0.1	0.1	3年ぶりに下落	その他 (1.1) 身の回り用品 (0.4)	理美容用品 (▲1.2)

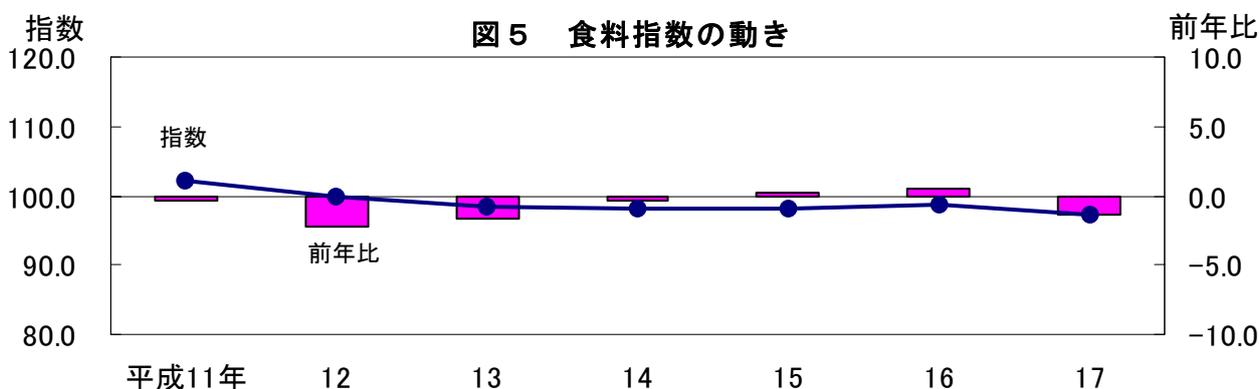
表10 広島市 10大費目の動き (前年比：%)

区分	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
総合	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.5
生鮮食品を除く総合	0.0	0.1	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 0.3
食料	▲ 0.3	▲ 2.2	▲ 1.7	▲ 0.3	0.2	0.5	▲ 1.4
生鮮食品	▲ 4.7	▲ 6.6	▲ 0.5	▲ 2.3	2.6	1.0	▲ 5.9
住居	0.4	0.7	0.5	0.0	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.9
光熱・水道	▲ 1.9	2.2	0.4	0.3	▲ 1.5	0.7	1.9
家具・家事用品	▲ 3.2	▲ 2.5	▲ 2.0	▲ 4.1	▲ 3.3	▲ 5.2	▲ 4.6
被服及び履物	3.0	1.8	▲ 1.7	▲ 0.7	▲ 2.3	0.1	3.7
保健医療	▲ 2.5	0.4	0.7	▲ 1.1	1.8	▲ 0.6	▲ 0.4
交通・通信	▲ 0.3	0.6	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.6	0.2
教育	2.1	1.3	0.8	1.6	0.8	0.7	0.2
教養娯楽	▲ 2.2	▲ 1.0	▲ 2.9	▲ 2.3	▲ 1.3	▲ 1.9	▲ 1.6
諸雑費	1.0	▲ 0.1	0.5	▲ 0.7	0.7	0.1	▲ 0.1

(2) 費目別指数の動き (平成12年=100, 前年比：%, 以下同じ。)

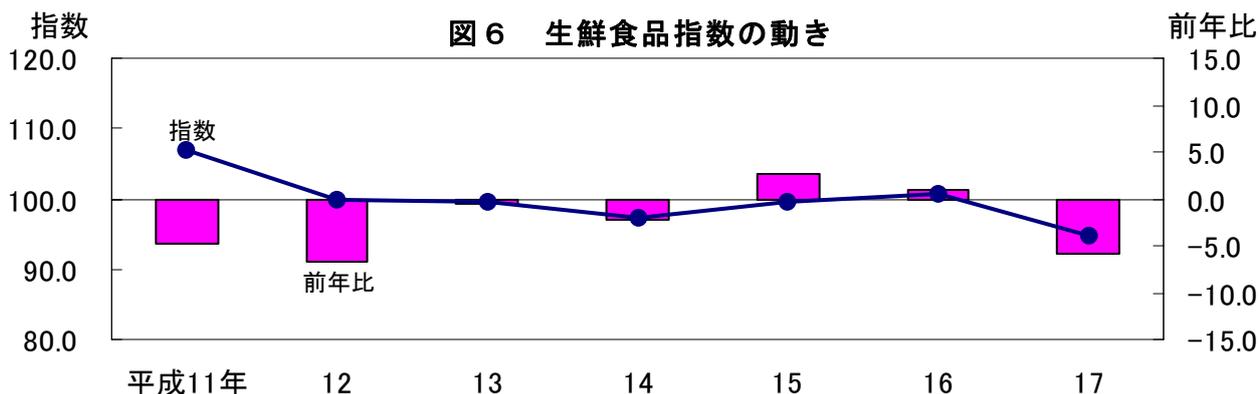
**食料 (97.3) は野菜・海藻、穀類の下落などにより (-) 1.4%**

○ ねぎなどの野菜・海藻 (96.6) が7.6%の下落, 国産米などの穀類 (94.6) が7.6%下落したことなどにより, **食料**は3年ぶりに下落した。



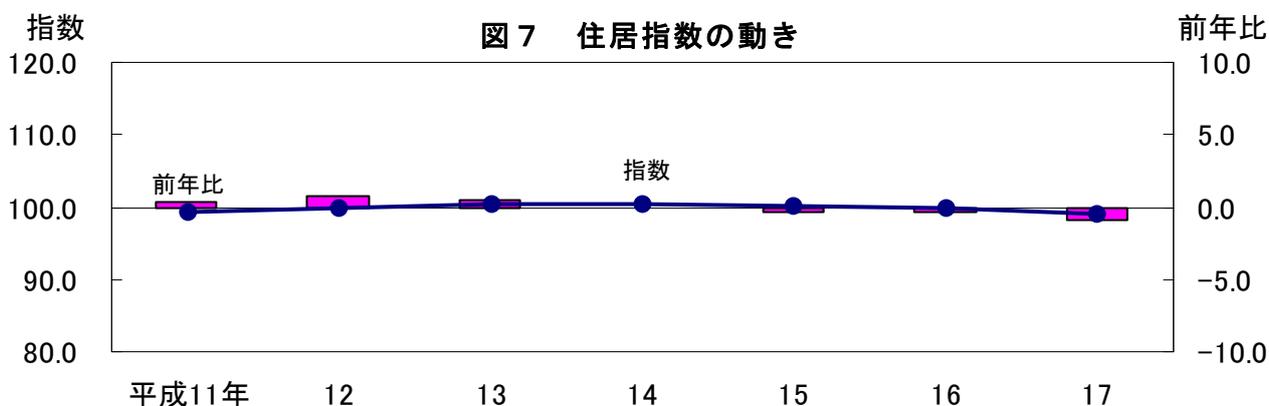
**生鮮食品 (94.8) は生鮮野菜の下落などにより (-) 5.9%**

○ 生鮮野菜 (101.7) が10.2%下落, 生鮮果物 (95.4) が4.9%下落したことなどにより, **生鮮食品**は3年ぶりに下落した。



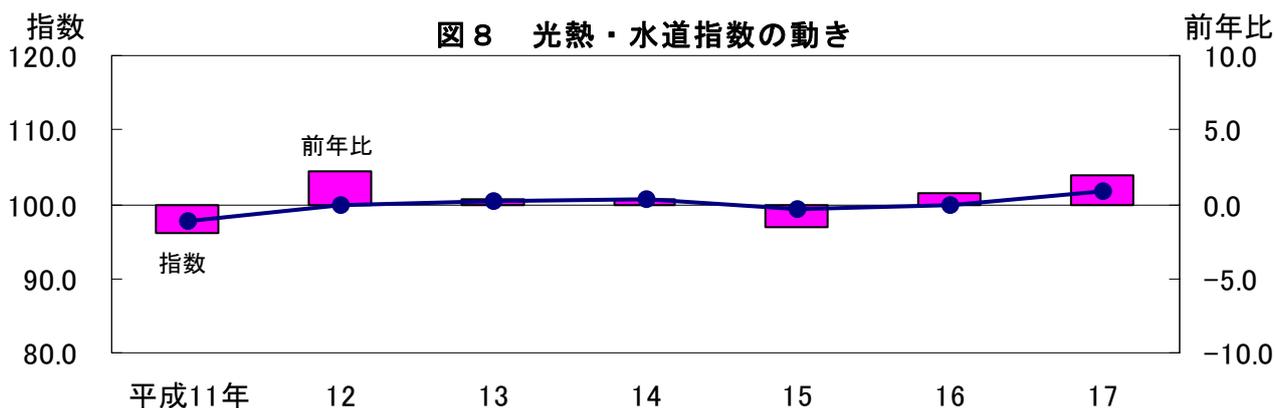
**住居（98.9）は家賃の下落などにより（-）0.9%**

○ 持家の帰属家賃などの家賃（99.3）が0.9%下落，温水洗浄便座などの設備修繕・維持（97.7）が0.4%下落したことなどにより，**住居**は3年連続下落した。



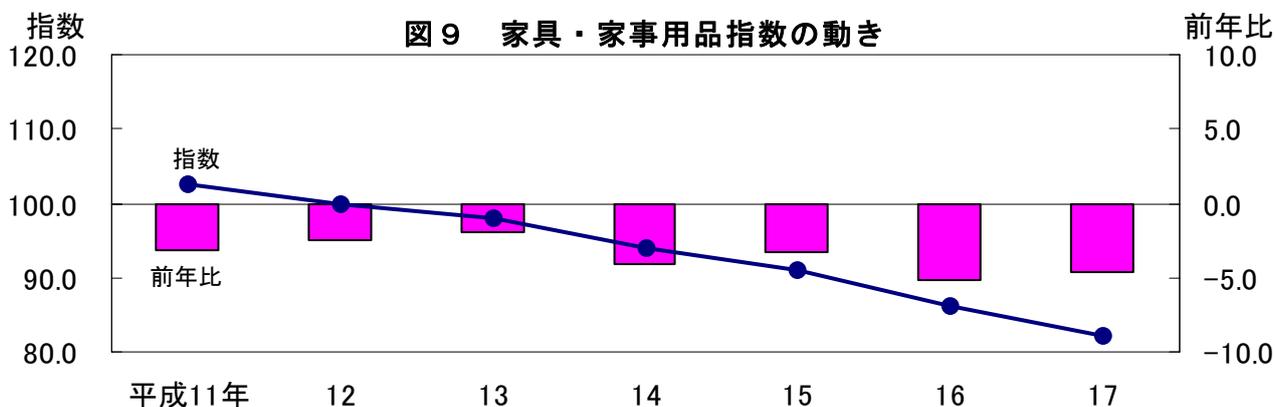
**光熱・水道（101.8）は上下水道料の上昇などにより（+）1.9%**

○ 下水道料などの上下水道料（114.1）が3.0%上昇，灯油の他の光熱（128.7）が19.7%上昇したことなどにより，**光熱・水道**は2年連続上昇した。



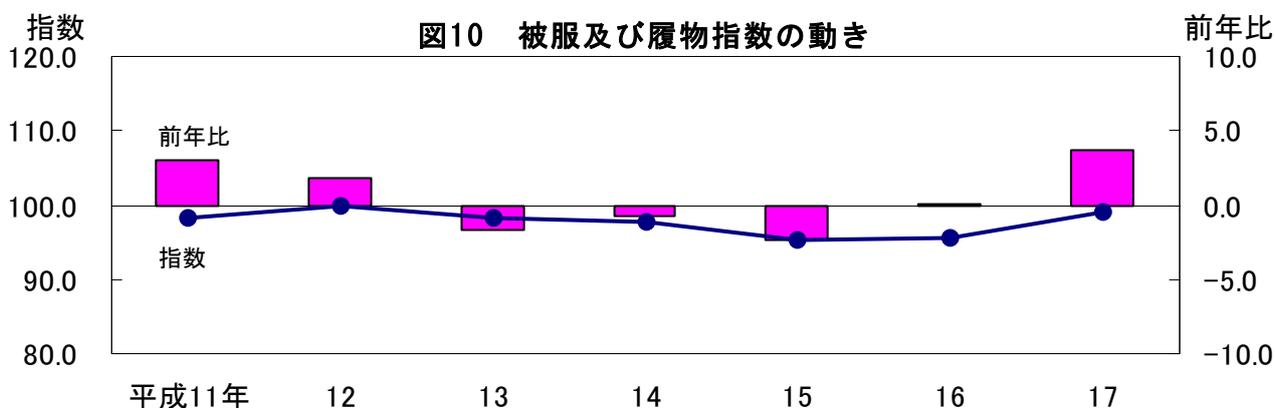
**家具・家事用品（82.2）は家庭用耐久財の下落などにより（-）4.6%**

○ ルームエアコンなどの家庭用耐久財（60.7）が7.2%下落，飯茶わんなどの家事雑貨（91.5）が3.9%下落したことなどにより，**家具・家事用品**は13年連続して下落した。



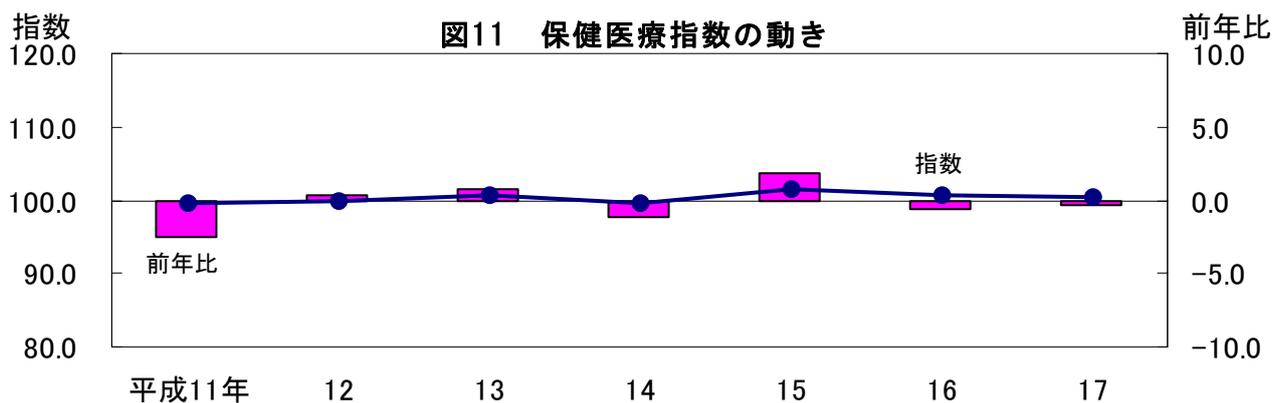
**被服及び履物（99.0）は履物類の上昇などにより（+）3.7%**

○ 婦人靴などの履物類（107.9）が11.9%上昇，婦人セーターなどのシャツ・セーター類（108.5）が4.2%上昇したことなどにより，**被服及び履物**は2年連続上昇した。



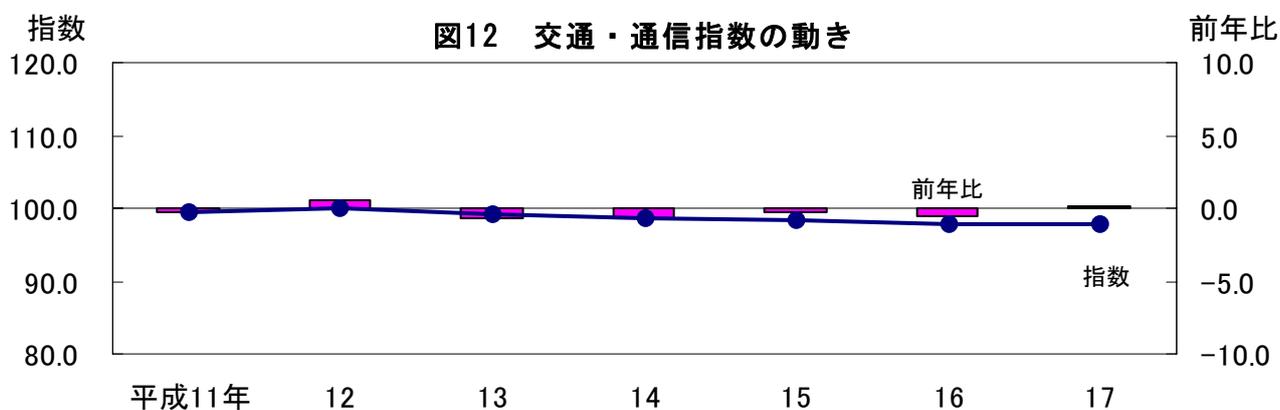
**保健医療（100.4）は保健医療用品・器具の下落などにより（-）0.4%**

○ ヘルスメーターなどの保健医療用品・器具（86.0）が2.9%下落，胃腸薬などの医薬品・健康保持用摂取品（93.7）が0.5%下落したことなどにより，**保健医療**は2年連続下落した。



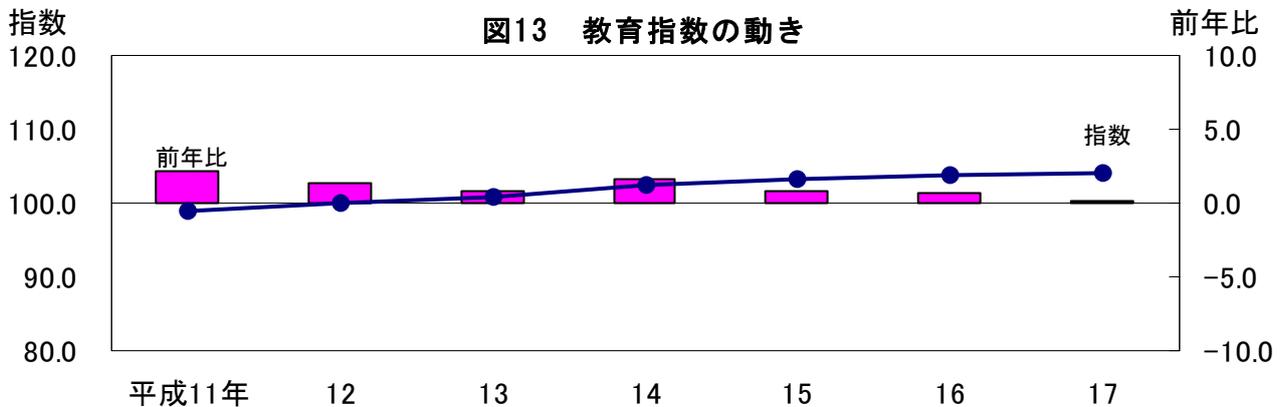
**交通・通信（97.9）は自動車等関係費の上昇により（+）0.2%**

○ ガソリンや自動車保険料（自賠責）などの自動車等関係費（100.8）が2.1%上昇したことにより，**交通・通信**は5年ぶり上昇した。



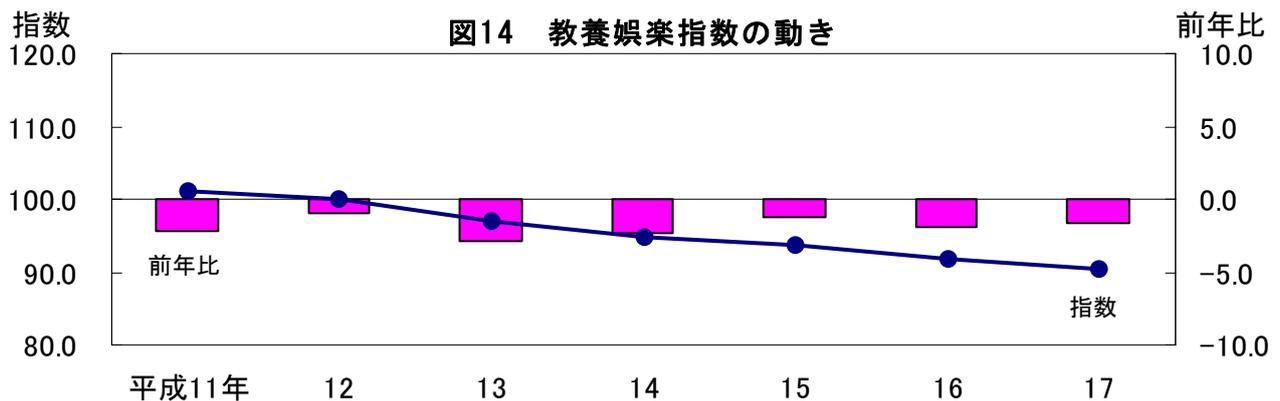
**教育（104.1）は授業料等の上昇などにより（+）0.2%**

○ 私立中・高校授業料などの授業料等（103.7）が0.2%上昇、月謝（学習塾）の補習教育（105.7）が0.2%上昇したことにより、**教育**は指数作成以来連続して上昇した。



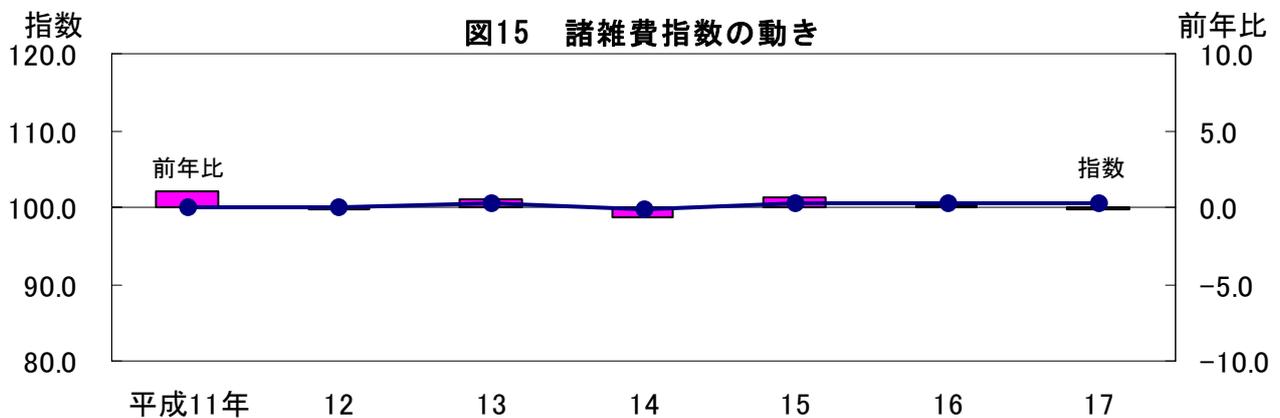
**教養娯楽（90.4）は教養娯楽用耐久財の下落などにより（-）1.6%**

○ テレビなどの教養娯楽用耐久財（48.0）が14.3%下落、ペットフード（ドッグフード）などの教養娯楽用品（87.9）が2.4%の下落などにより、**教養娯楽**は8年連続して下落した。



**諸雑費（100.5）は理美容用品の下落により（-）0.1%**

○ ヘアカラーなどの理美容用品（98.5）が1.2%下落したことなどにより、**諸雑費**は3年ぶりに下落した。



#### 4 福山市の動き

##### (1) 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数

###### 総合指数は7年連続、生鮮食品を除く総合指数は6年連続の下落

- 食料、教養娯楽などの下落により、総合指数の前年比は0.2%下落し、下落幅は0.2ポイント縮小した。生鮮食品を除く総合指数の前年比は0.1%下落し、下落幅は0.4ポイント縮小した。
- 総合指数が7年連続下落、生鮮食品を除く総合指数が6年連続下落したのは、昭和49年に本県が指数作成を開始して以来初めてである。

表1-1 福山市の10大費目別消費者物価指数

(平成12年=100)

区 分	指数	前年比(%)		前年比の動き	費目別の動き	
		17年	16年		上昇した費目	下落した費目
総 合	97.5	▲0.2	▲0.4	7年連続下落		
生鮮食品を除く総合	97.3	▲0.1	▲0.5	6年連続下落		
食 料	97.3	▲1.1	0.1	3年ぶりに下落	乳卵類 (4.6) 調理食品 (1.1)	穀類 (▲7.9) 肉類 (▲4.4)
生鮮食品	101.1	▲2.3	1.3	3年ぶりに下落	生鮮魚介 (1.2)	生鮮野菜 (▲5.4) 生鮮果物 (▲3.9)
住 居	100.2	▲0.2	▲0.4	2年連続下落		家賃 (▲0.1) 設備修繕・維持 (▲0.4)
光熱・水道	102.3	1.3	0.6	2年連続上昇	他の光熱 (19.3) ガス代 (0.5)	
家具・家事用品	86.9	▲2.4	▲4.8	7年連続下落	寝具類 (6.4)	家庭用耐久財 (▲5.9) 室内装備品 (▲9.4)
被服及び履物	93.2	2.8	▲1.1	5年ぶりに上昇	洋服 (3.5) シャツ・セーター類 (5.4)	和服 (▲3.4) 他の被服 (▲0.9)
保健医療	102.3	▲0.1	0.1	3年ぶりに下落	保健医療サービス (0.2)	保健医療用品・器具 (▲0.8) 医薬品・健康保持用摂取品 (▲0.2)
交通・通信	99.4	0.7	▲0.4	2年ぶりに上昇	自動車等関係費 (3.2)	通信 (▲7.0) 交通 (▲0.1)
教 育	103.6	0.6	1.5	指数作成以来連続して上昇	補習教育 (1.7) 授業料等 (0.2)	教科書・学習参考教材 (▲0.1)
教養娯楽	89.0	▲1.8	▲1.9	7年連続下落	書籍・他の印刷物 (0.4)	教養娯楽用耐久財 (▲14.7) 教養娯楽用品 (▲2.8)
諸 雑 費	101.4	1.0	0.1	3年連続上昇	身の回り用品 (4.3) その他 (1.4)	

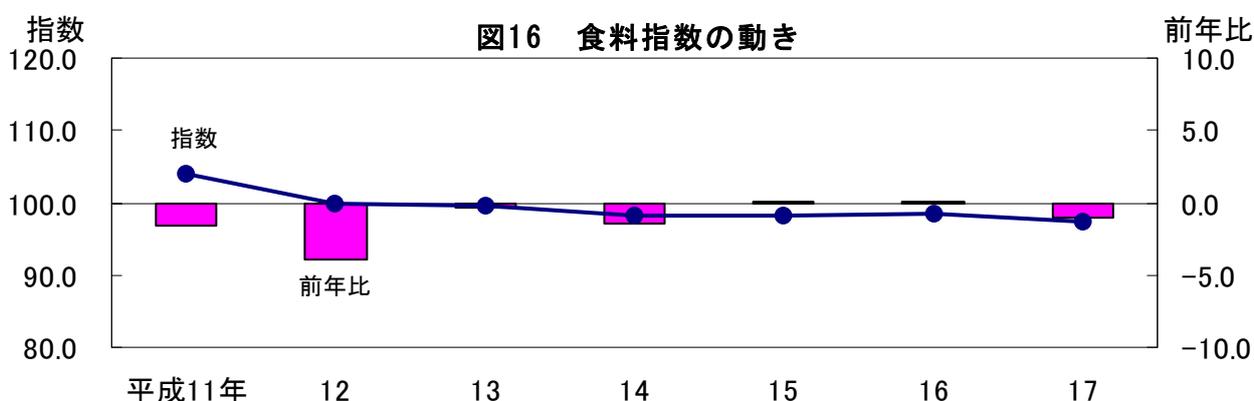
表12 福山市 10大費目の動き (前年比:%)

区分	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
総合	▲0.5	▲1.2	▲0.8	▲0.9	▲0.2	▲0.4	▲0.2
生鮮食品を除く総合	0.0	▲0.6	▲1.0	▲0.9	▲0.2	▲0.5	▲0.1
食料	▲1.6	▲3.9	▲0.3	▲1.5	0.1	0.1	▲1.1
生鮮食品	▲8.1	▲11.8	3.4	▲1.3	0.1	1.3	▲2.3
住居	0.8	0.1	0.8	0.0	0.0	▲0.4	▲0.2
光熱・水道	0.8	0.6	▲0.7	1.5	▲0.4	0.6	1.3
家具・家事用品	▲0.4	▲5.9	▲0.5	▲3.1	▲3.0	▲4.8	▲2.4
被服及び履物	▲2.5	6.5	▲6.2	▲1.2	▲1.1	▲1.1	2.8
保健医療	▲0.4	▲1.4	0.8	▲1.2	2.7	0.1	▲0.1
交通・通信	0.1	▲1.6	▲0.4	▲0.7	0.2	▲0.4	0.7
教育	1.8	1.4	0.8	0.2	0.5	1.5	0.6
教養娯楽	▲1.3	▲1.5	▲3.5	▲2.5	▲1.8	▲1.9	▲1.8
諸雑費	0.2	1.1	▲0.3	▲0.2	0.8	0.1	1.0

(2) 費目別指数の動き (平成12年=100, 前年比:%, 以下同じ。)

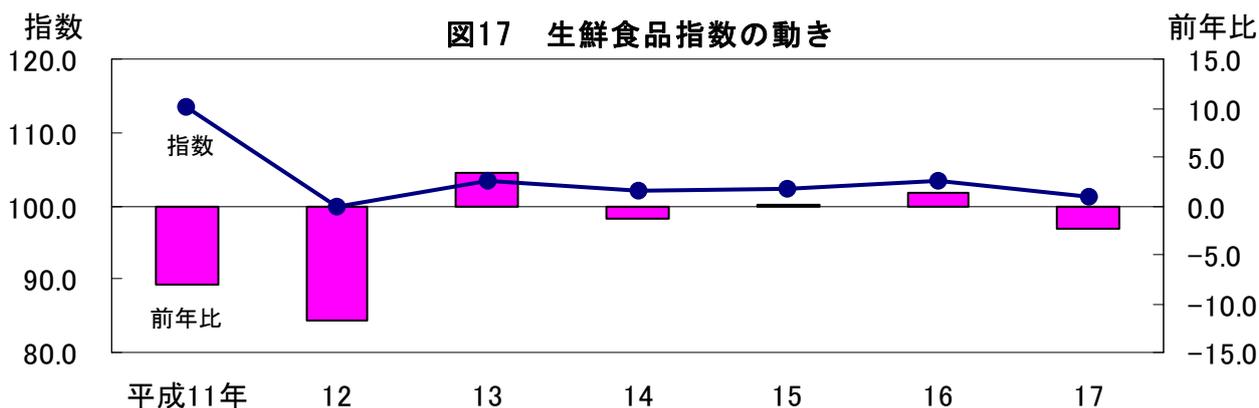
**食料(97.3)は穀類の下落などにより(-)1.1%**

○ 国産米などの穀類(94.7)が7.9%下落, 牛肉(肩肉)などの肉類(96.0)が4.4%下落したことなどにより, **食料**は3年ぶりに下落した。



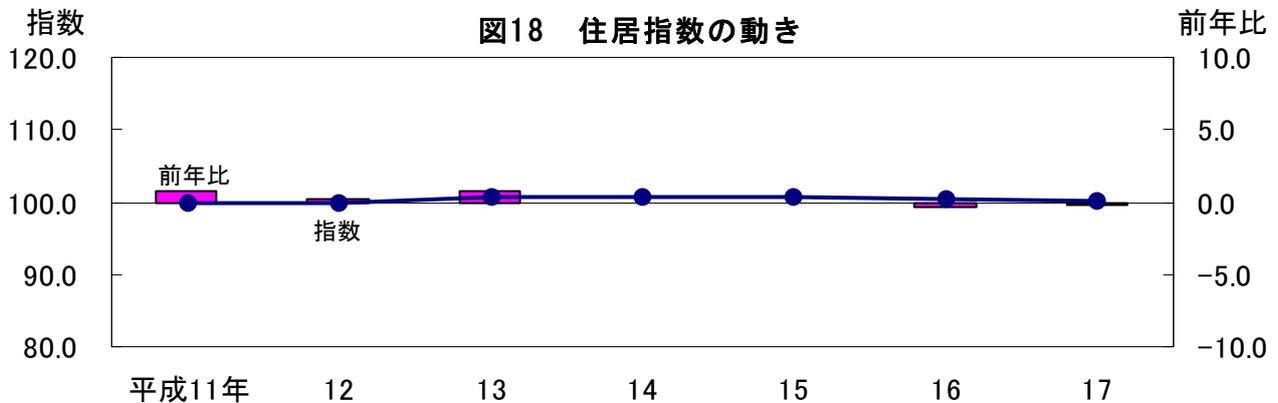
**生鮮食品(101.1)は生鮮野菜の下落などにより(-)2.3%**

○ 生鮮野菜(104.9)が5.4%下落, 生鮮果物(92.6)が3.9%下落したことなどにより, **生鮮食品**は3年ぶりに下落した。



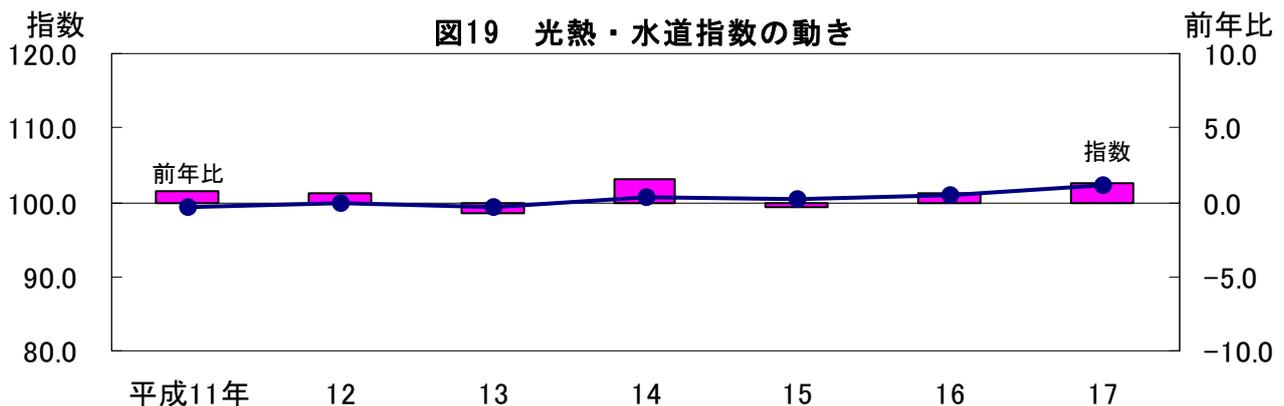
**住居（100.2）は家賃の下落などにより（-）0.2%**

○ 持家の帰属家賃（非木造中住宅）などの家賃（100.3）が0.1%下落，温水洗浄便座などの設備修繕・維持（99.7）が0.4%下落したことなどにより，**住居**は2年連続下落した。



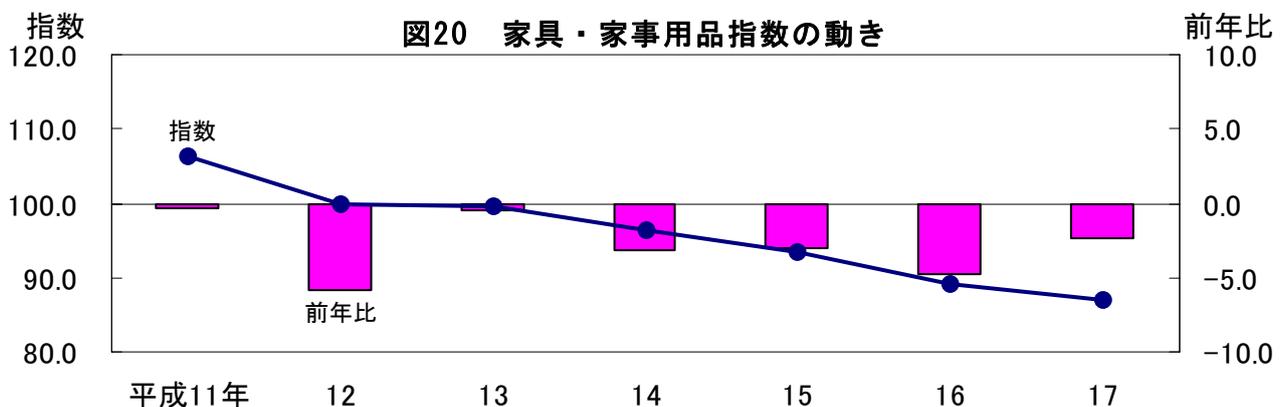
**光熱・水道（102.3）は他の光熱の上昇などにより（+）1.3%**

○ 灯油の他の光熱（136.5）が19.3%上昇，プロパンガスなどのガス代（107.6）が0.5%上昇したことなどにより，**光熱・水道**は2年連続上昇した。



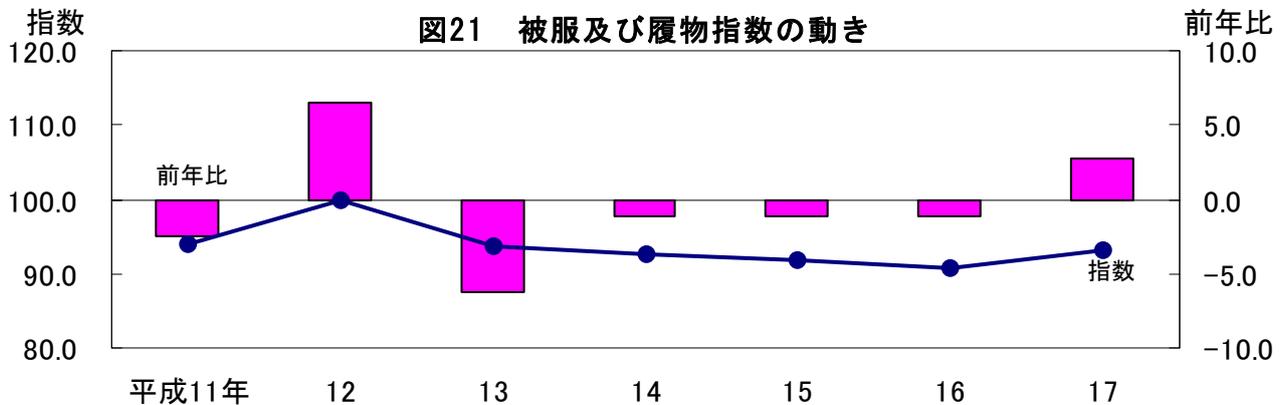
**家具・家事用品（86.9）は家庭用耐久財の下落などにより（-）2.4%**

○ 電気掃除機などの家庭用耐久財（72.9）が5.9%下落，カーペットなどの室内装備品（76.7）が9.4%下落したことなどにより，**家具・家事用品**は7年連続して下落した。



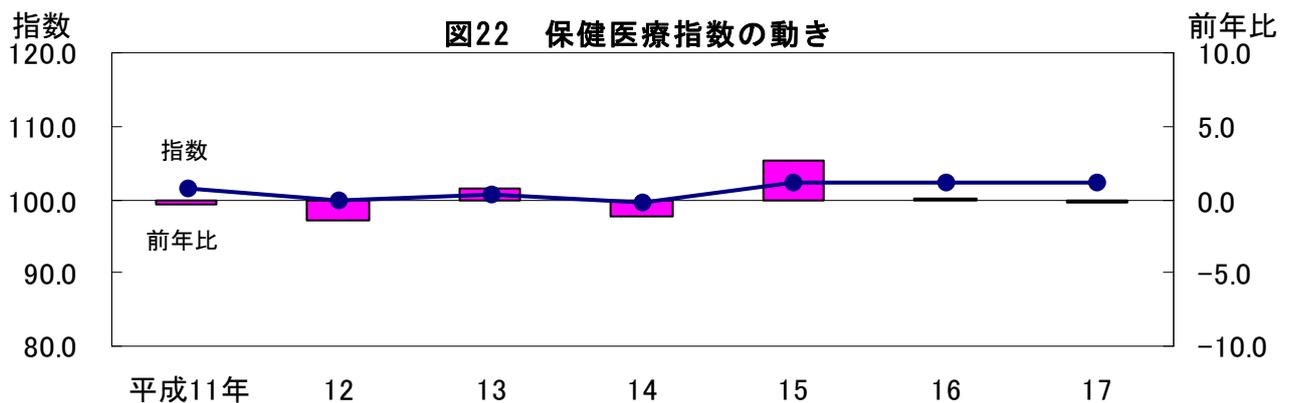
**被服及び履物（93.2）は洋服の上昇などにより（+）2.8%**

○ ワンピース（秋冬物）などの洋服（91.4）が3.5%上昇，男子セーターなどのシャツ・セーター類（93.0）が5.4%上昇したことなどにより，**被服及び履物**は5年ぶりに上昇した。



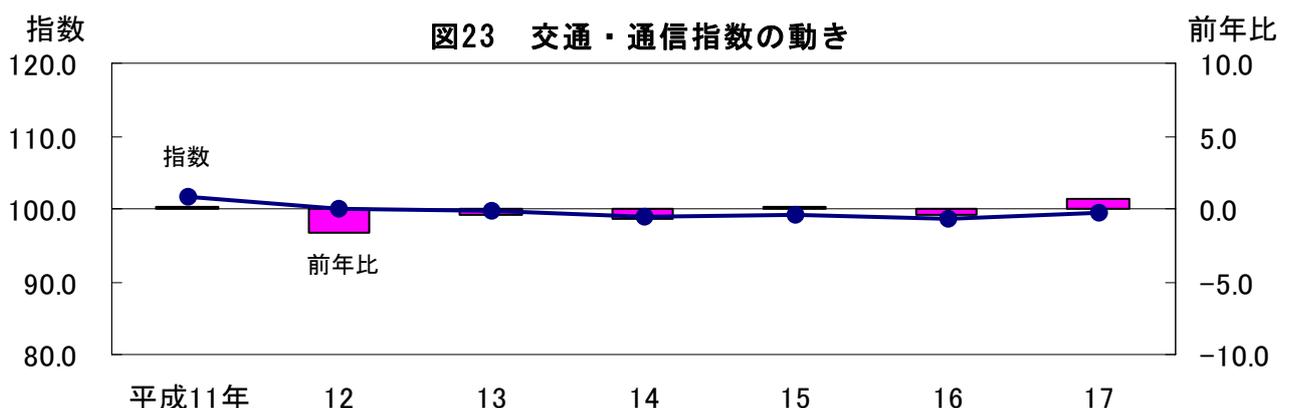
**保健医療（102.3）は保健医療用品・器具の下落などにより（-）0.1%**

○ ヘルスマーターなどの保健医療用品・器具（87.9）が0.8%下落，目薬などの医薬品・健康保持用摂取品（97.5）が0.2%下落したことなどにより，**保健医療**は3年ぶりに下落した。



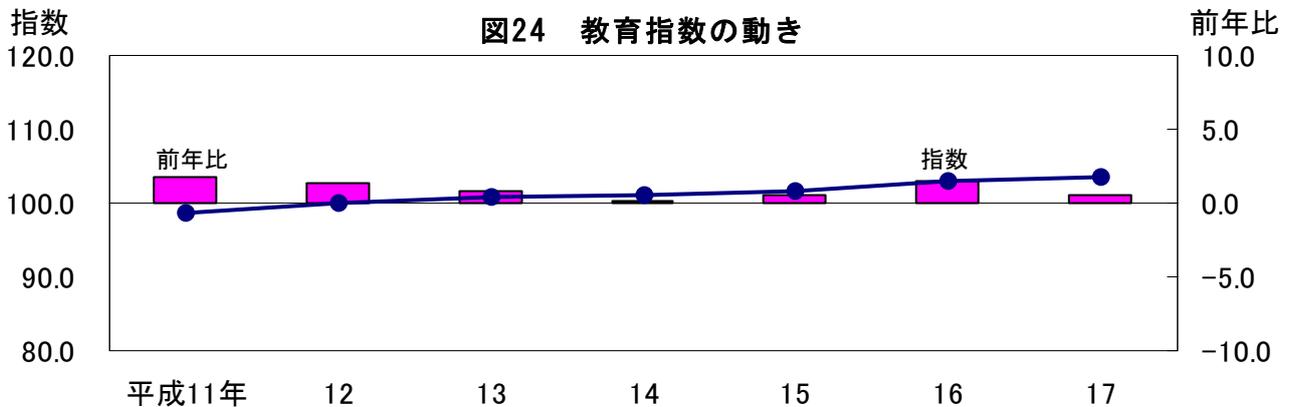
**交通・通信（99.4）は自動車等関係費の上昇により（+）0.7%**

○ ガソリン，自動車保険料(自賠責)などの自動車等関係費（103.8）が3.2%上昇したことなどにより，**交通・通信**は2年ぶりに上昇した。



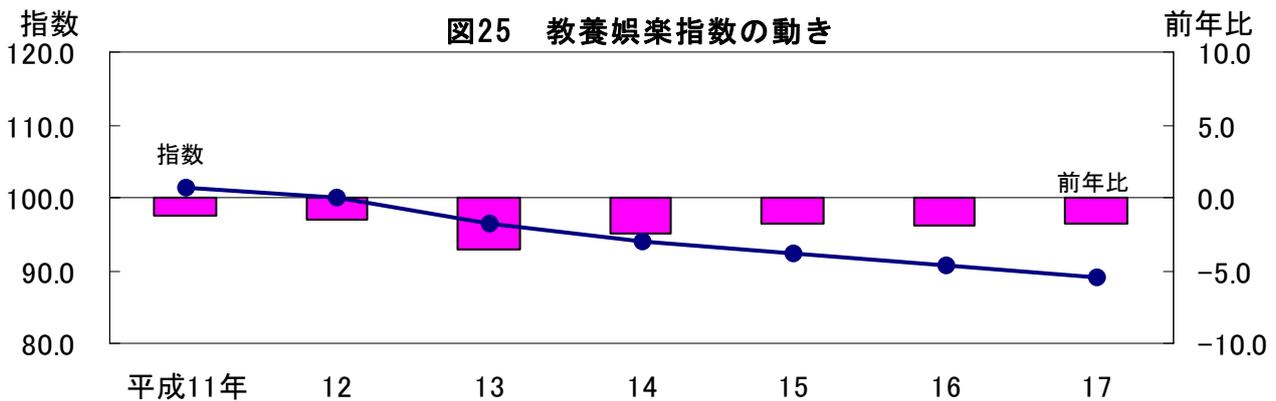
**教育（103.6）は補習教育の上昇などにより（+）0.6%**

○ 月謝（学習塾）の補習教育（105.6）が1.7%上昇，公・私立高校授業料などの授業料等（102.9）が0.2%上昇したことなどにより，**教育**は指数作成以来連続して上昇した。



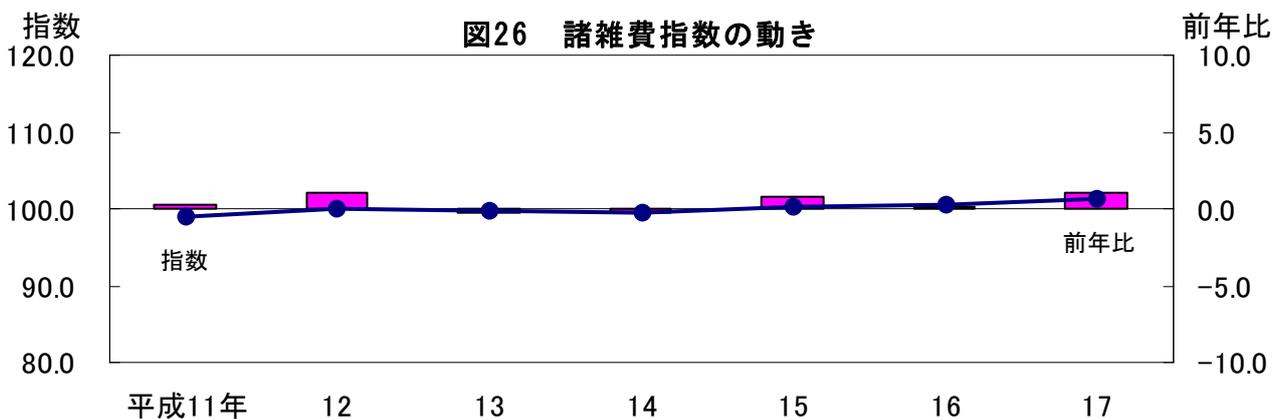
**教養娯楽（89.0）は教養娯楽用耐久財の下落などにより（-）1.8%**

○ パソコンなどの教養娯楽用耐久財（43.1）が14.7%下落，ペットフード（ドッグフード）などの教養娯楽用品（86.0）が2.8%下落したことなどにより，**教養娯楽**は7年連続して下落した。



**諸雑費（101.4）は身の回り用品の上昇などにより（+）1.0%**

○ 指輪などの身の回り用品（107.2）が4.3%上昇，通所介護料などのその他（101.4）が1.4%上昇したことなどにより，**諸雑費**は3年連続上昇した。



## 5 三次市の動き

### (1) 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数

#### 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数は7年連続の下落

- 食料，教養娯楽などの下落により，総合指数の前年比は0.4%下落し，下落幅は0.3ポイント拡大した。生鮮食品を除く総合指数の前年比は0.1%下落し，下落幅は0.2ポイント縮小した。
- 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数が7年連続下落したのは，昭和49年に本県が指数作成を開始して以来初めてである。

表13 三次市消費者物価指数の10大費目

(平成12年=100)

区 分	指数	前年比(%)		前年比の動き	費目別の動き	
		17年	16年		上昇した費目	下落した費目
総 合	97.3	▲0.4	▲0.1	7年連続下落		
生鮮食品を除く総合	97.4	▲0.1	▲0.3	7年連続下落		
食 料	97.0	▲1.5	0.3	3年ぶりに下落	調理食品 (2.3) 菓子類 (1.8)	穀類 (▲9.1) 野菜・海藻 (▲7.4)
生鮮食品	96.2	▲4.8	1.0	3年ぶりに下落		生鮮野菜 (▲9.2) 生鮮果物 (▲3.9) 生鮮魚介 (▲1.7)
住 居	99.0	0.5	0.2	2年連続上昇	家賃 (0.8)	設備修繕・維持 (▲0.5)
光熱・水道	98.5	1.4	0.5	2年連続上昇	他の光熱 (14.8)	ガス代 (▲0.8)
家具・家事用品	83.1	▲3.1	▲3.9	11年連続下落	寝具類 (6.1)	家庭用耐久財 (▲3.5) 家事雑貨 (▲4.3)
被服及び履物	95.2	▲0.1	0.7	2年ぶりに下落	洋服 (3.9) 生地・糸類 (2.3)	履物類 (▲6.5) 被服関連サービス (▲4.7)
保健医療	101.1	▲1.1	▲0.6	2年連続下落		保健医療用品・器具 (▲6.8) 医薬品・健康保持用 摂取品 (▲0.4)
交通・通信	99.0	0.3	▲0.9	2年ぶりに上昇	自動車等関係費 (2.4)	通信 (▲6.7)
教 育	103.6	0.9	0.5	指数作成以来連続して上昇	補習教育 (1.8) 授業料等 (0.6)	
教養娯楽	91.7	▲1.4	▲1.0	7年連続下落	書籍・他の印刷等 (0.4) 教養娯楽サービス (0.1)	教養娯楽用耐久財 (▲10.2) 教養娯楽用品 (▲2.6)
諸 雑 費	102.9	1.2	▲0.2	2年ぶりに上昇	身の回り用品 (7.3) その他 (2.3)	理美容用品 (▲0.7) 理美容サービス (▲0.1)

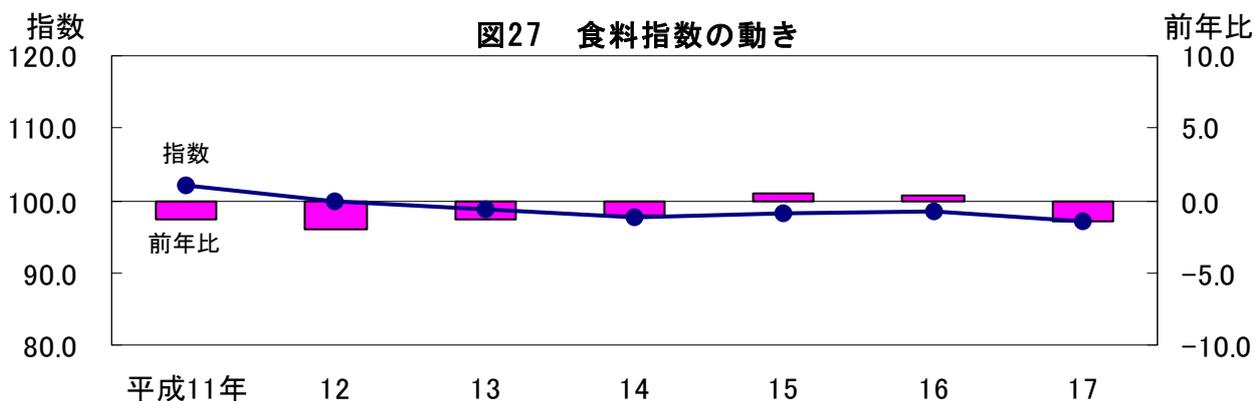
表14 三次市 10大費目の動き (前年比：%)

区分	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
総合	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.4
生鮮食品を除く総合	▲ 0.4	▲ 0.7	▲ 1.2	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.1
食料	▲ 1.3	▲ 2.0	▲ 1.3	▲ 1.0	0.5	0.3	▲ 1.5
生鮮食品	▲ 3.8	▲ 6.7	▲ 0.5	▲ 2.5	3.2	1.0	▲ 4.8
住居	0.2	▲ 1.5	▲ 1.6	▲ 0.1	0.0	0.2	0.5
光熱・水道	▲ 1.6	1.4	▲ 1.6	▲ 0.4	▲ 1.4	0.5	1.4
家具・家事用品	▲ 1.0	▲ 2.3	▲ 1.8	▲ 5.5	▲ 3.8	▲ 3.9	▲ 3.1
被服及び履物	▲ 0.3	0.9	▲ 2.6	▲ 0.9	▲ 2.0	0.7	▲ 0.1
保健医療	▲ 1.2	▲ 1.5	0.3	▲ 0.6	3.1	▲ 0.6	▲ 1.1
交通・通信	▲ 1.1	0.1	▲ 0.3	▲ 0.1	0.0	▲ 0.9	0.3
教育	1.2	0.8	0.8	0.6	0.8	0.5	0.9
教養娯楽	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 2.1	▲ 2.5	▲ 1.7	▲ 1.0	▲ 1.4
諸雑費	1.5	▲ 0.8	0.9	0.5	0.5	▲ 0.2	1.2

(2) 費目別指数の動き (平成12年=100, 前年比：%, 以下同じ。)

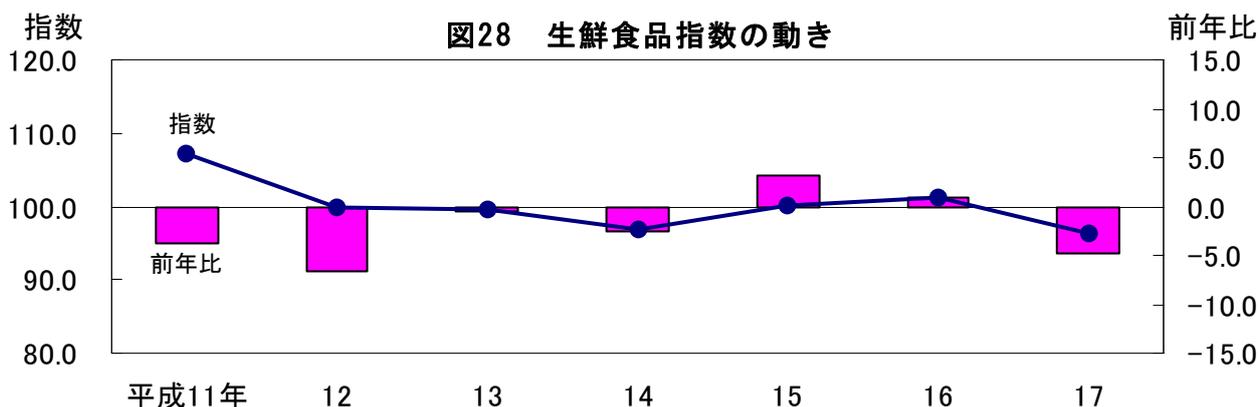
食料(97.0)は、穀類の下落などにより(－)1.5%

- 国産米などの穀類(91.3)が9.1%下落、ねぎなどの野菜・海藻(99.7)が7.4%下落したことなどにより、食料は3年ぶりに下落した。



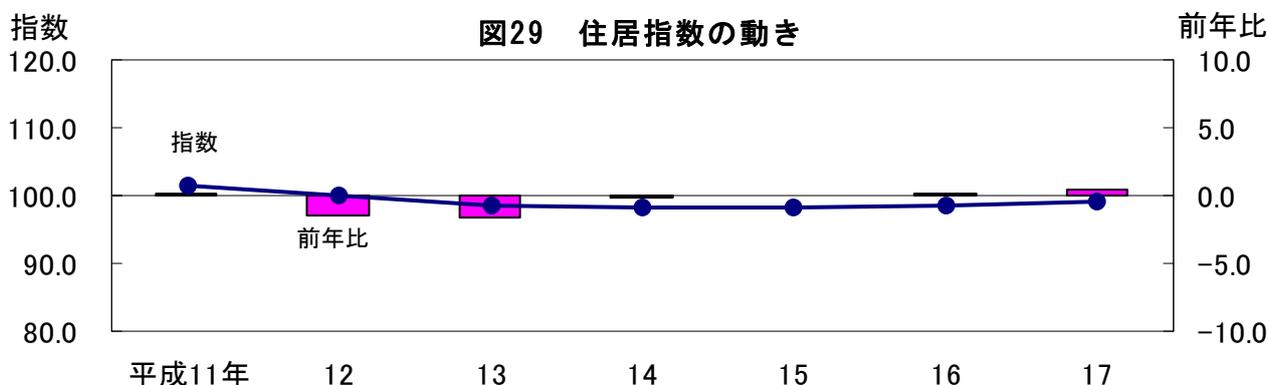
生鮮食品(96.2)は、生鮮野菜の下落などにより(－)4.8%

- 生鮮野菜(102.1)が9.2%下落、生鮮果物(99.6)が3.9%下落したことなどにより生鮮食品は3年ぶりに下落した。



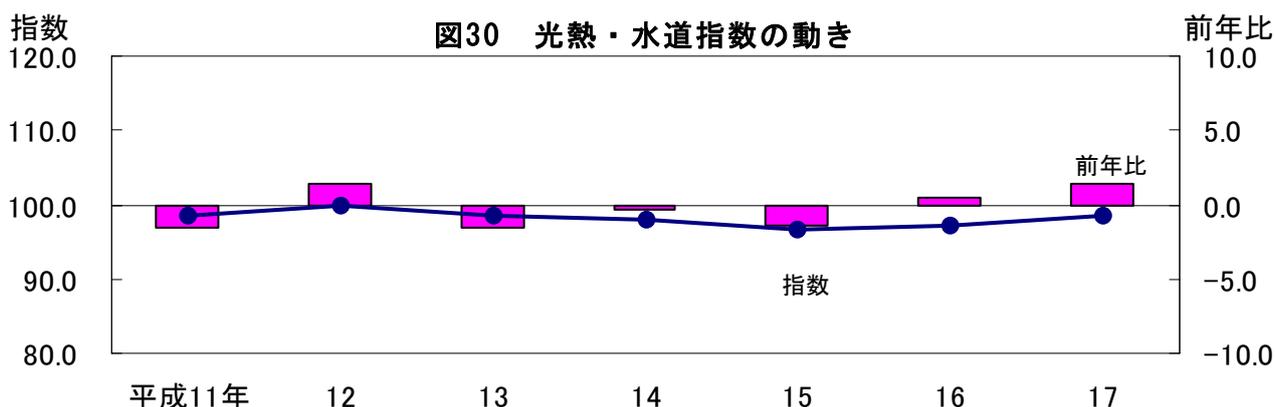
**住居（99.0）は家賃の上昇により（+）0.5%**

○ 持家の帰属家賃（非木造中住宅）などの家賃（99.3）が0.8%上昇したことなどにより、**住居**は2年連続上昇した。



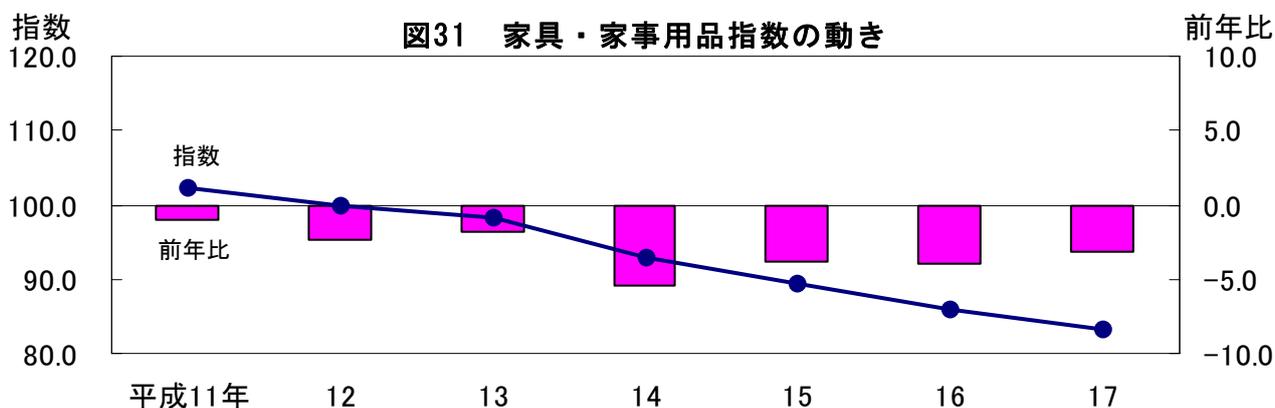
**光熱・水道（98.5）は他の光熱の上昇により（+）1.4%**

○ 灯油の他の光熱（125.1）が14.8%上昇したことなどにより、**光熱・水道**は2年連続上昇した。



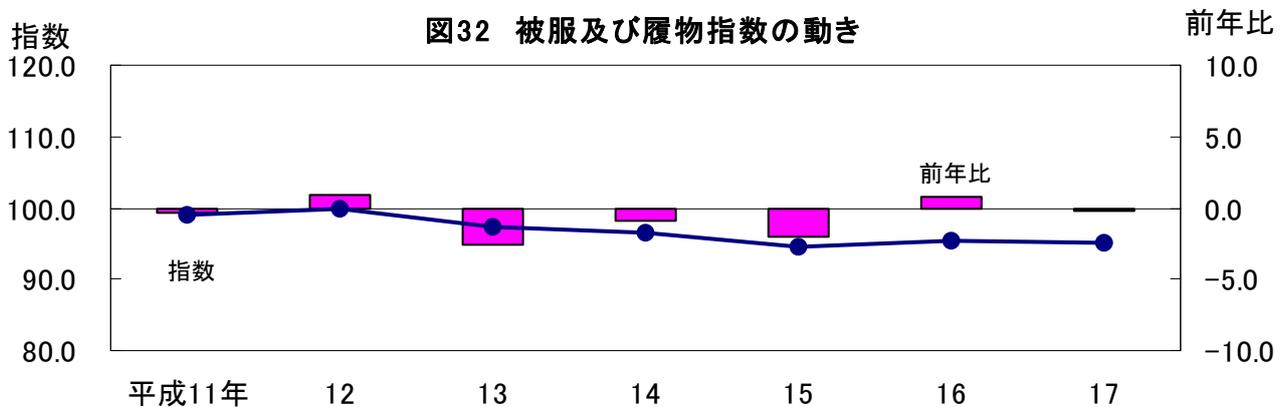
**家具・家事用品（83.1）は家庭用耐久財の下落などにより（-）3.1%**

○ 電気カーペットなどの家庭用耐久財（69.5）が3.5%下落、蛍光ランプなどの家事雑貨（84.0）が4.3%下落したことなどにより、**家具・家事用品**は11年連続して下落した。



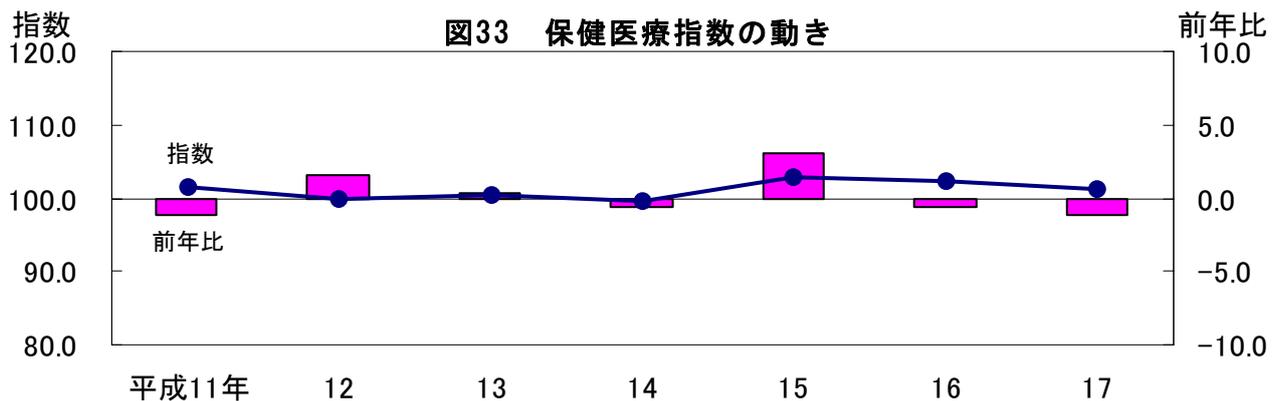
**被服及び履物（95.2）は履物類の下落などにより（-）0.1%**

- 運動靴（子供用）などの履物類（94.9）が6.5%下落，洗濯代などの被服関連サービス（95.5）が4.7%下落したことなどにより，**被服及び履物**は2年ぶりに下落した。



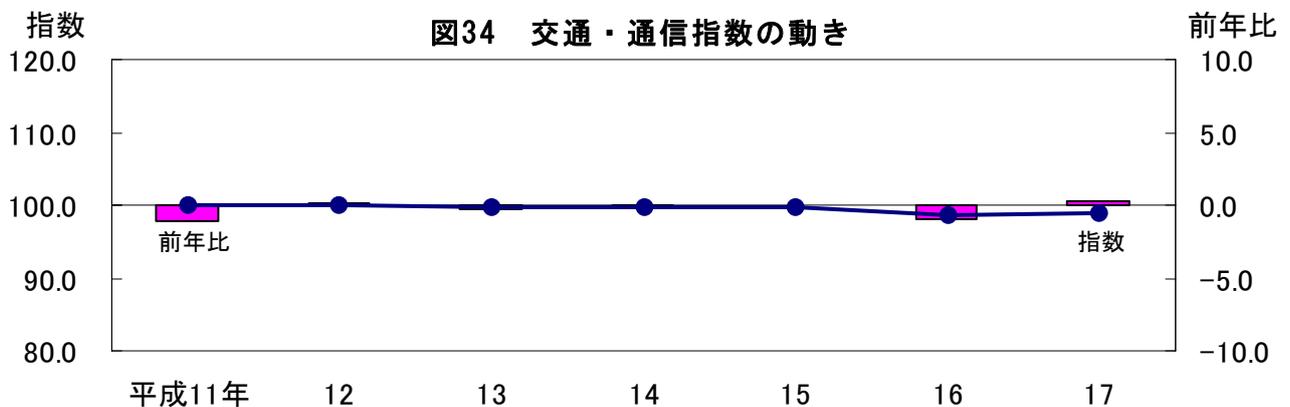
**保健医療（101.1）は保健医療用品・器具の下落などにより（-）1.1%**

- 生理用ナプキンなどの保健医療用品・器具（77.6）が6.8%下落，感冒薬などの医薬品・健康保持用摂取品（98.4）が0.4%下落したことなどにより，**保健医療**は2年連続下落した。



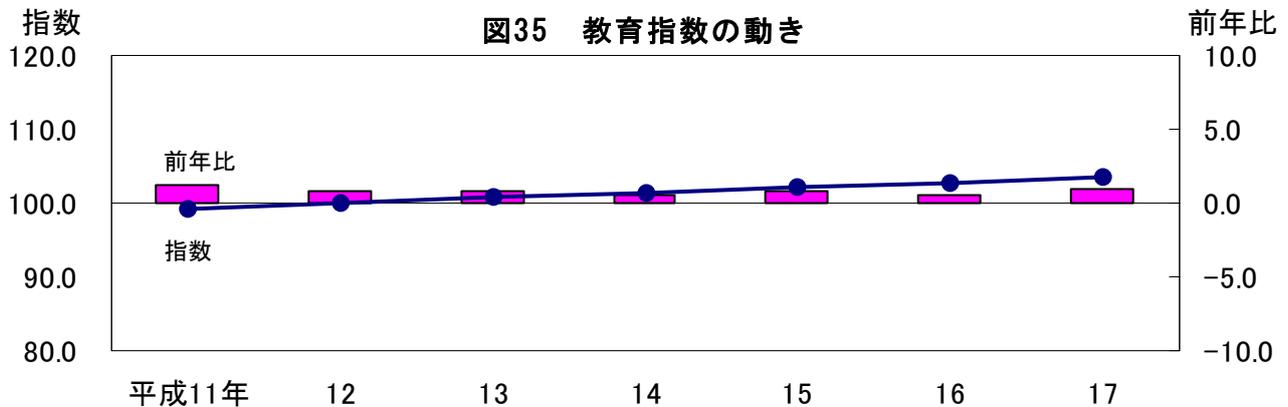
**交通・通信（99.0）は自動車等関係費の上昇により（+）0.3%**

- ガソリン，自動車保険料(自賠責)などの自動車等関係費（103.2）が2.4%上昇したことなどにより，**交通・通信**は2年ぶりに上昇した。



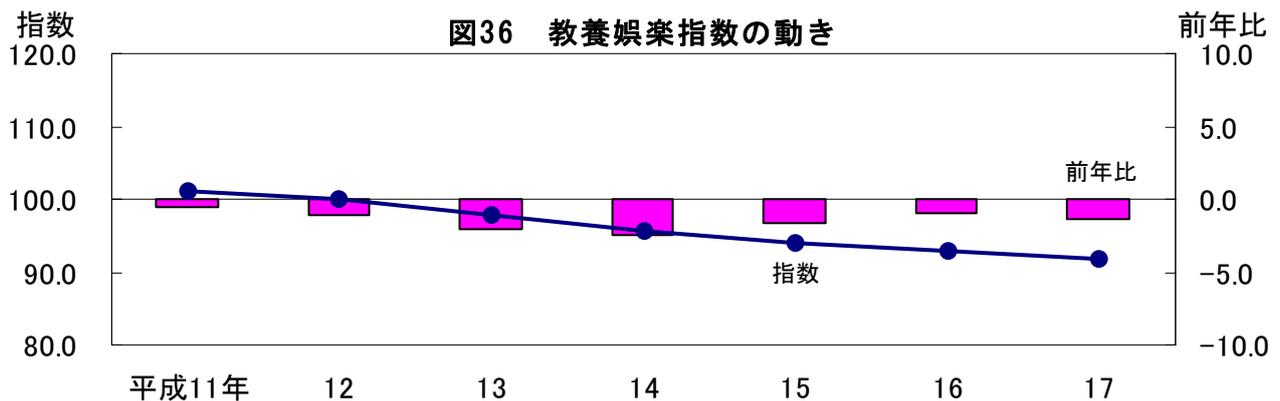
**教育（103.6）は補習教育の上昇などにより（+）0.9%**

○ 月謝（学習塾）の補習教育（102.1）が1.8%上昇，大学授業料（国公立）などの授業料等（104.5）が0.6%上昇したことなどにより，**教育**は指数作成以来連続して上昇した。



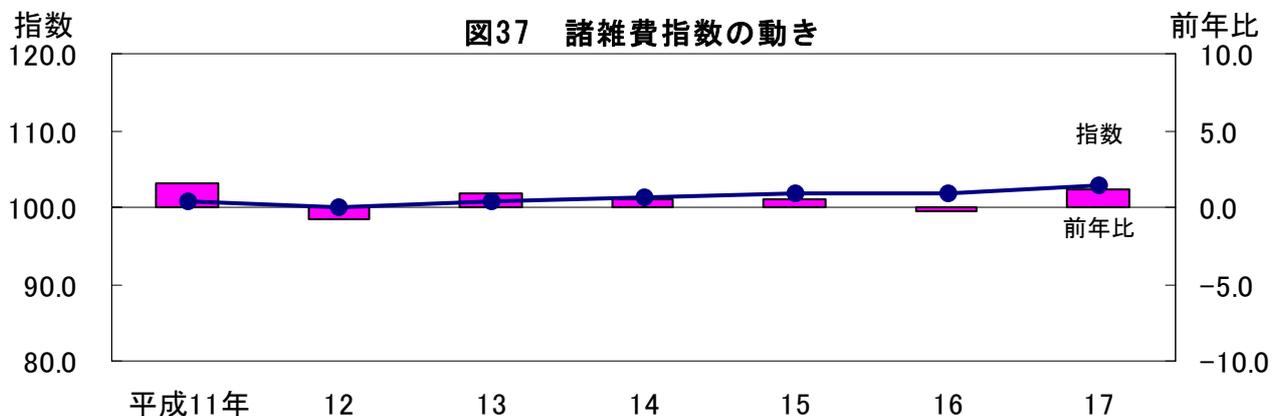
**教養娯楽（91.7）は教養娯楽用耐久財の下落などにより（-）1.4%**

○ テレビなどの教養娯楽用耐久財（64.8）が10.2%下落，ペットフード（ドッグフード）などの教養娯楽用品（86.0）が2.6%下落したことなどにより，**教養娯楽**は7年連続下落した。



**諸雑費（102.9）は身の回り用品の上昇などにより（+）1.2%**

○ 通学用かばんなどの身の回り用品（113.0）が7.3%上昇，通所介護料などのその他（103.0）が2.3%上昇したことなどにより，**諸雑費**は2年ぶりに上昇した。



## 6 3市平均の動き（3市平均指数は平成12年分から作成）

### （1）総合指数及び生鮮食品を除く総合指数

#### 総合指数及び生鮮食品を除く総合指数は5年連続の下落

- 食料，教養娯楽などの下落により，総合指数の前年比は0.4%下落し，下落幅は前年と同水準となった。生鮮食品を除く総合指数の前年比は0.2%下落し，下落幅は前年と比較し0.2ポイント縮小した。

表15 3市平均消費者物価指数の10大費目

(平成12年=100)

区 分	指数	前年比(%)		前年比の動き	費目別の動き	
		17年	16年		上昇した費目	下落した費目
総 合	97.3	▲0.4	▲0.4	5年連続下落		
生鮮食品を除く総合	97.4	▲0.2	▲0.4	5年連続下落		
食 料	97.1	▲1.4	0.4	3年ぶりに下落	調理食品 (1.6) 乳卵類 (2.0)	穀類 (▲7.8) 野菜・海藻 (▲6.6)
生鮮食品	95.7	▲4.8	0.5	3年ぶりに下落		生鮮野菜 (▲9.1) 生鮮果物 (▲4.4) 生鮮魚介 (▲0.9)
住 居	98.5	▲0.8	▲0.5	4年連続下落		家賃 (▲0.8) 設備修繕・維持 (▲0.8)
光熱・水道	101.9	1.9	0.5	2年連続上昇	他の光熱 (19.5) 上下水道料 (1.5)	
家具・家事用品	84.2	▲4.3	▲4.6	5年連続下落	家事サービス (0.1)	家庭用耐久財 (▲7.8) 室内装備品 (▲9.3)
被服及び履物	97.6	3.4	▲0.1	上昇に転じる	洋服 (3.5) 履物類 (9.1)	和服 (▲3.4)
保健医療	101.0	▲0.4	▲0.4	2年連続下落	保健医療サービス (0.3)	保健医療用品・器具 (▲2.2) 医薬品・健康保持用摂取品 (▲0.4)
交通・通信	98.4	0.4	▲0.5	上昇に転じる	自動車等関係費 (2.8)	通信 (▲6.8)
教 育	104.4	0.4	1.0	5年連続上昇	授業料等 (0.3) 補習教育 (0.7)	
教養娯楽	90.0	▲1.7	▲1.9	5年連続下落	書籍・他の印刷物 (0.5)	教養娯楽用耐久財 (▲14.1) 教養娯楽用品 (▲2.7)
諸 雑 費	101.2	0.4	0.1	3年連続上昇	身の回り用品 (1.6) その他 (1.6)	理美容用品 (▲0.7)

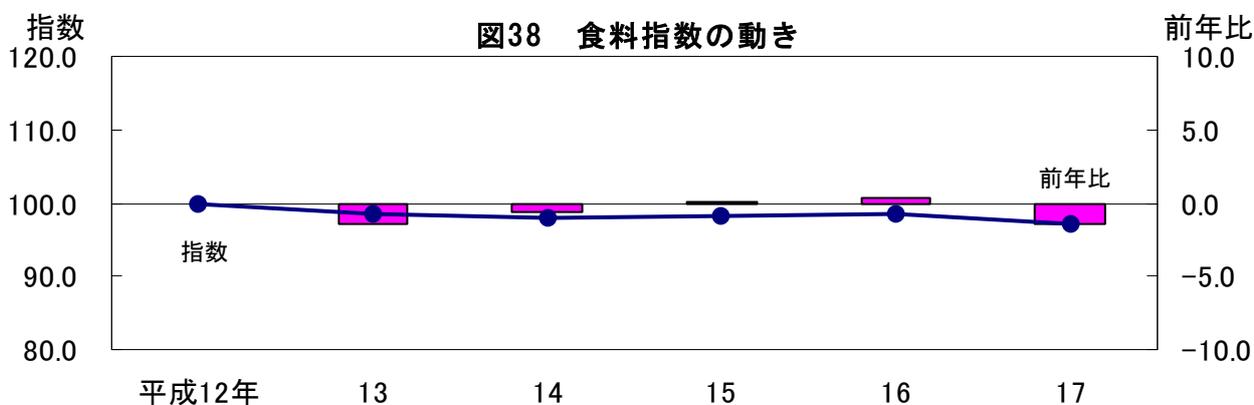
表16 3市平均 10大費目の動き (前年比: %)

区分	12年	13年	14年	15年	16年	17年
総合	—	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.4
生鮮食品を除く総合	—	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.2
食料	—	▲ 1.4	▲ 0.6	0.1	0.4	▲ 1.4
生鮮食品	—	0.3	▲ 2.1	1.8	0.5	▲ 4.8
住居	—	0.4	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 0.8
光熱・水道	—	▲ 0.2	0.6	▲ 0.9	0.5	1.9
家具・家事用品	—	▲ 2.1	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 4.6	▲ 4.3
被服及び履物	—	▲ 2.8	▲ 0.9	▲ 1.9	▲ 0.1	3.4
保健医療	—	0.8	▲ 1.2	2.2	▲ 0.4	▲ 0.4
交通・通信	—	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.1	▲ 0.5	0.4
教育	—	0.8	1.3	0.9	1.0	0.4
教養娯楽	—	▲ 2.9	▲ 2.3	▲ 1.6	▲ 1.9	▲ 1.7
諸雑費	—	0.5	▲ 0.5	0.7	0.1	0.4

(2) 費目別指数の動き (平成12年=100, 前年比: %, 以下同じ。)

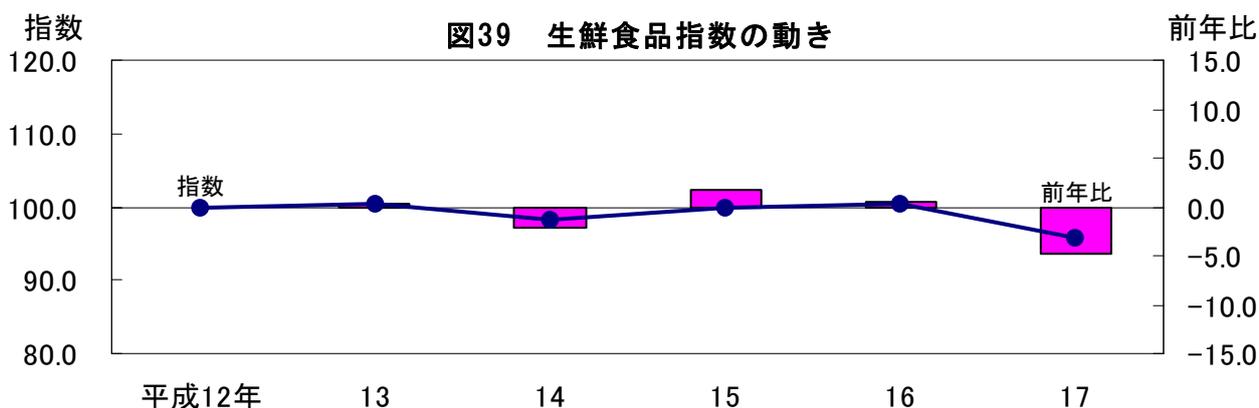
食料(97.1)は穀類の下落などにより(−)1.4%

○ 国産米などの穀類(94.6)が7.8%下落, ねぎなどの野菜・海藻(97.6)が6.6%下落したことなどにより, **食料**は3年ぶりに下落した。



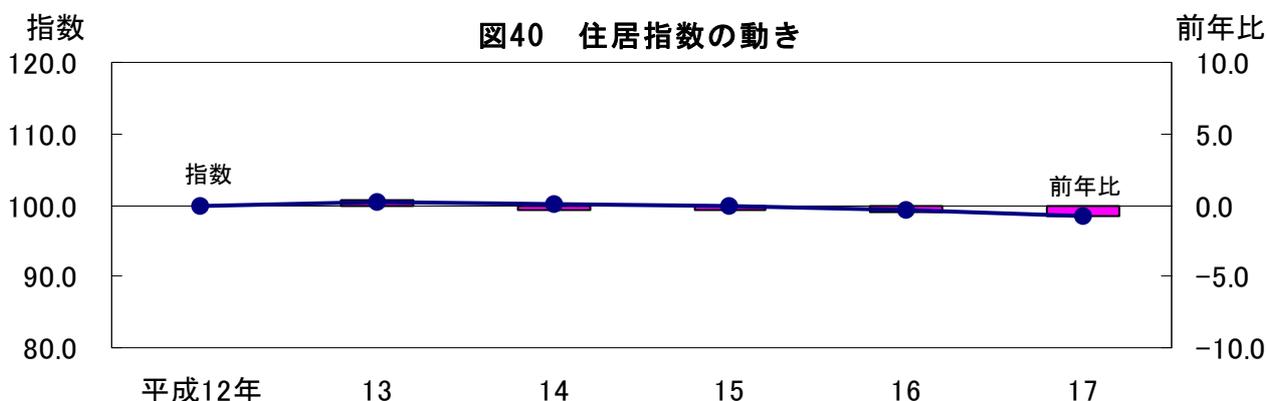
生鮮食品(95.7)は生鮮野菜の下落などにより(−)4.8%

○ 生鮮野菜(102.5)が9.1%下落, 生鮮果物(94.9)が4.4%下落したことなどにより, **生鮮食品**は3年ぶりに下落した。



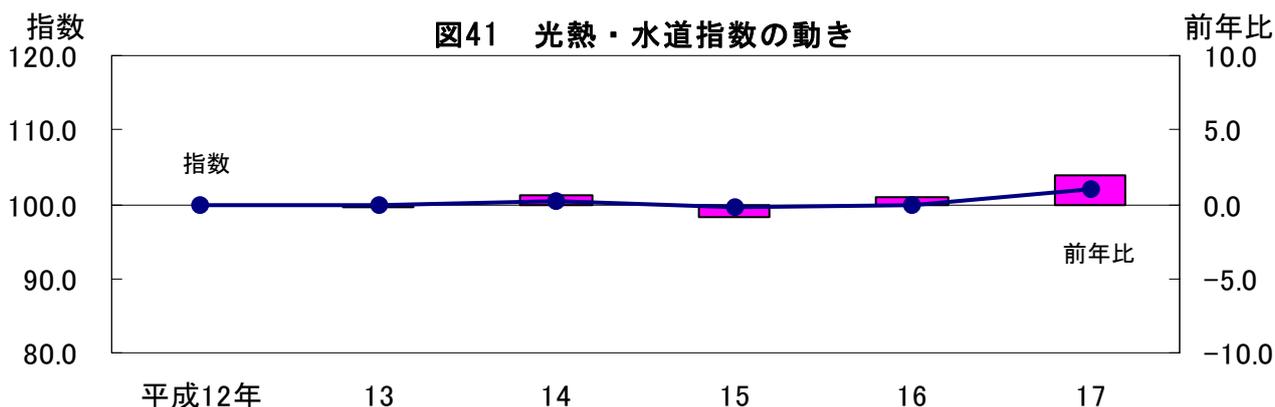
**住居（98.5）は家賃の下落などにより（-）0.8%**

○ 持家の帰属家賃（木造中住宅）などの家賃（98.9）が0.8%下落，温水洗浄便座などの設備修繕・維持（97.2）が0.8%下落したことなどにより，**住居**は4年連続下落した。



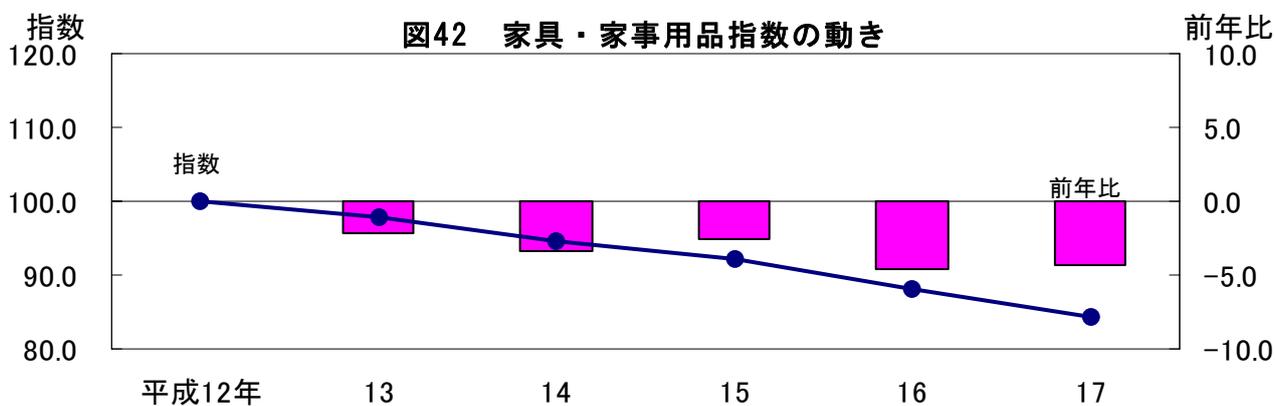
**光熱・水道（101.9）は他の光熱の上昇などにより（+）1.9%**

○ 灯油の他の光熱（130.4）が19.5%上昇，下水道料金などの上下水道料（110.5）が1.5%上昇したことなどにより，**光熱・水道**は2年連続上昇した。



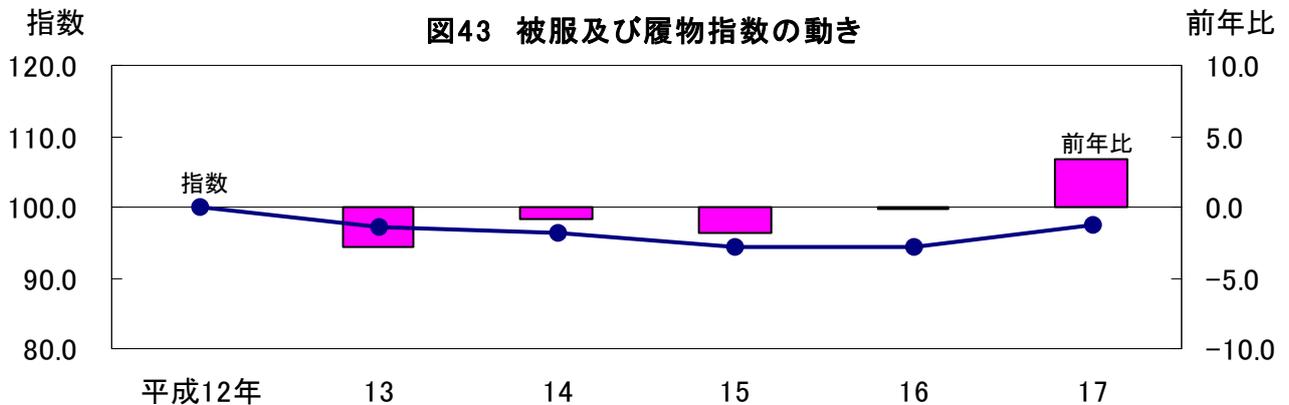
**家具・家事用品（84.2）は家庭用耐久財の下落などにより（-）4.3%**

○ ルームエアコンなどの家庭用耐久財（66.4）が7.8%下落，カーペットなどの室内装備品（75.8）が9.3%下落したことなどにより，**家具・家事用品**は5年連続下落した。



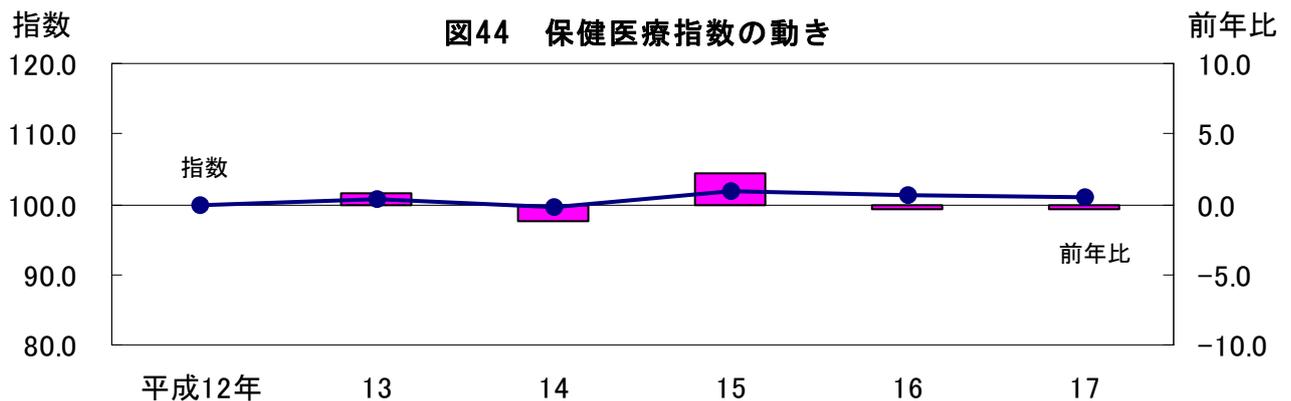
**被服及び履物（97.6）は洋服の上昇などにより（+）3.4%**

○ ワンピース（秋冬物）などの洋服（92.9）が3.5%上昇，婦人靴などの履物類（104.7）が9.1%上昇したことなどにより，**被服及び履物**は3市平均指数作成以来初めて上昇した。



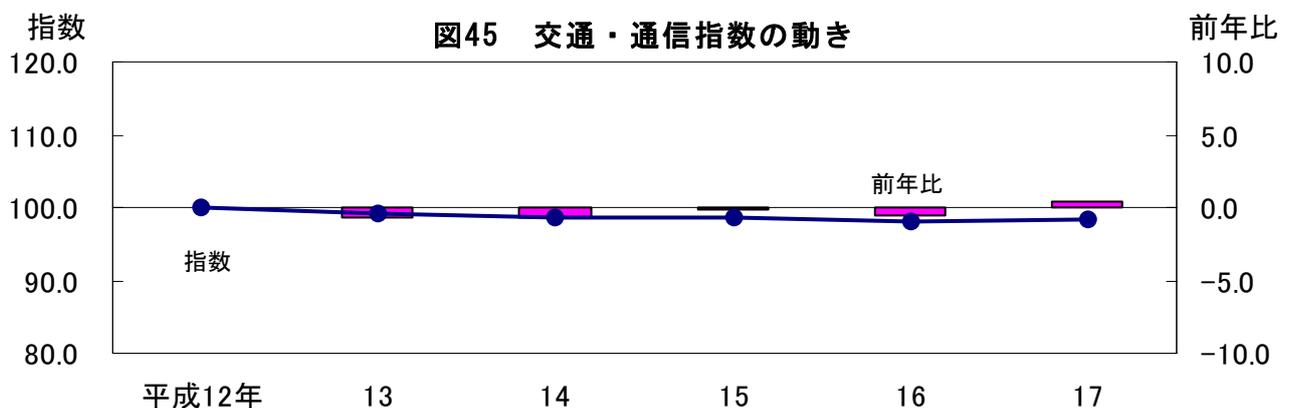
**保健医療（101.0）は保健医療用品・器具の下落などにより（-）0.4%**

○ ヘルスメーターなどの保健医療用品・器具（86.4）が2.2%下落，胃腸薬などの医薬品・健康保持用摂取品（94.8）が0.4%下落したことなどにより，**保健医療**は2年連続下落した。



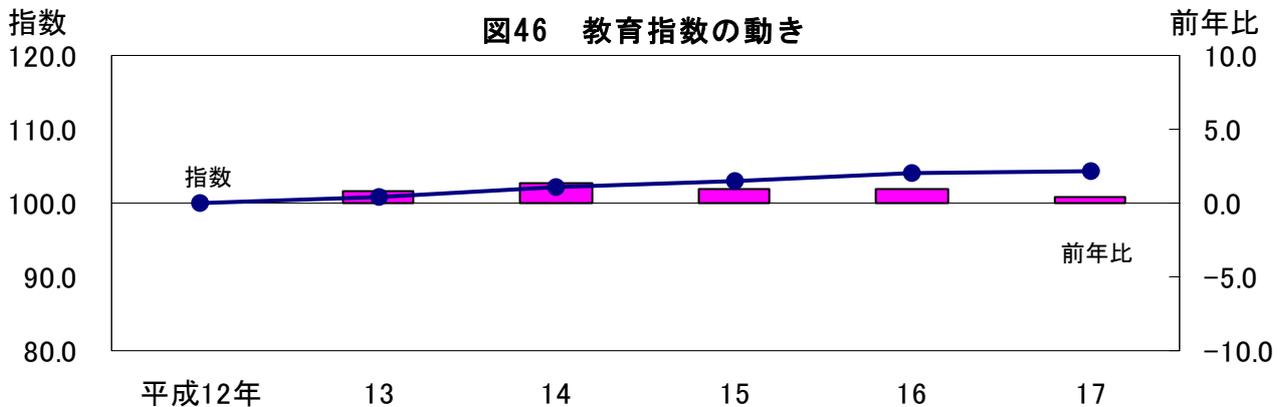
**交通・通信（98.4）は自動車等関係費の上昇により（+）0.4%**

○ ガソリンや自動車保険料(自賠責)などの自動車等関係費（102.2）が2.8%上昇したことなどにより，**交通・通信**は3市平均指数作成以来初めて上昇した。



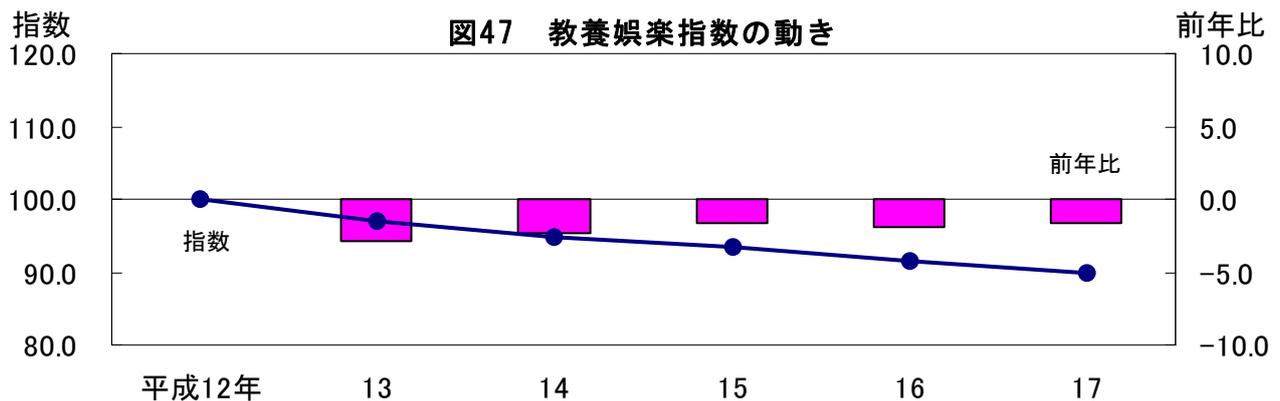
**教育（104.4）は授業料等の上昇などにより（+）0.4%**

○ 大学（国公立）授業料などの授業料等（104.0）が0.3%上昇，月謝（学習塾）の補習教育（105.6）が0.7%上昇したことなどにより，**教育**は5年連続上昇した。



**教養娯楽（90.0）は教養娯楽用耐久財の下落などにより（-）1.7%**

○ テレビなどの教養娯楽用耐久財（48.9）が14.1%下落，ペットフード（ドッグフード）などの教養娯楽用品（86.7）が2.7%下落したことなどにより，**教養娯楽**は5年連続下落した。



**諸雑費（101.2）は身の回り用品の上昇などにより（+）0.4%**

○ ハンドバッグ（輸入品）などの身の回り用品（100.9）が1.6%上昇，通所介護料などのその他（99.9）が1.6%上昇したことなどにより，**諸雑費**は3年連続上昇した。

